主幹　海老名彈正

主筆　安井哲子

要目

現代女子のたしなみ　海老名彈正

一時的生活と永遠の生活　安井哲

女子の高等教育　文學博士　元良勇次郎

女性の逆理　女子大學講師　村田勤

修養瑣談　野口末彦

米國男女學生々活　哲學博士　谷津直秀

ゆきあたりばつたり集　内ケ崎作三郎

その夜　藤なみ子

限りなき生命　海老名彈正

他人の所有物の取扱に就て　安井哲

九月號

第壹巻第六號

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無菌 牛乳 山羊乳

神田三崎町
愛光舍
電話本局一三〇三番

香油 大瓶 卅五錢 中瓶 廿五錢 小瓶 十七錢
白粉 大瓶 卅五錢 中瓶 二十錢 水製 廿五錢

千代田香油と白粉とは廿世紀式の新香料を配合して調製せるものなれば、夙に淑女令嬢間に愛用せられ高評盛なり

東京馬喰町
山岸三之助
電話浪花三七九三

新女界第一卷第六號目次

●現代女子のたしなみ　海老名彈正
●一時的生活と永遠の生活　安井哲

●思想

●女子の高等教育に就て　文學博士 元良勇次郎
●女性の逆理　女子大學講師 村田勤
●修養瑣談　野口末彥
●米國男女學生々活　理科大學講師 哲學博士 谷津直秀

●家庭

●今年の我が避暑生活　海老名みや子
●妻としてのモネカ　聖山生

●文苑

●ゆきあたりばつたり集　在オクスフオルド大學 内ケ崎作三郎
●その夜　藤なみ子

●講壇

●限りなき生命　海老名彈正

●雜錄

●他人の所有物の取扱に就て　安井哲
●彙報●編輯だより

新女界第五號(前號)目次

●瑞西國リギ登山記　海老名彈正

●思想

●アルプス登山の追懷　安井哲子
●海の光　理科大學講師 理學士 谷津直秀
●天照大神と日本婦人　赤星仙太
●海より　大塚楠男
●日本に於ける夏の經驗　コーツ夫人
●老廢兵　くすを
●ブース夫人傳を讀む　薔薇園主人
●和歌　松川信男
●薜蘿　佐藤茂

●講壇

●自然の兒　海老名彈正

●雜錄

●金錢と子供　某夫人
●女學生の誘惑　一記者
●編輯だより

カメリヤ洗粉
◎容貌の美醜は化粧法の巧拙如何にあり
艶麗花に優り純潔雪よりも猶清く高雅優秀なる美貌は最新の化粧法により配劑せられたる高等美身料カメリヤ洗粉の常用によりて顯はる本品の小量を微温湯に溶解し洗面を試みよ花香芬々として心身爽快を覺ゆるのみならず顔面潔白となりて艶を生じ年若き花の顔となるべし
定價
大瓶 壹個廿五錢
小瓶 同十五錢
大袋 同五錢
小袋 同三錢
鑵入 同十三錢
ライオン歯磨 發賣元
東京神田 本舗
小林富次郎

京都御染物

本檳榔子黑

江戸褄模様類

新柄小紋色々

東京小石川上富坂一一三

コーツ邸內

京屋　佐藤松治郎

御一報次第直ちに参上可仕候

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

社告

謹啓當事務所先般來**小石川區小日向臺町三丁目九十三番地**に**移轉**致候間自今『新人』並に『新女界』に關する件は同所宛に御通信奉願候

東京市小石川區小日向臺町三丁目九十三番地
新人社事務所
（振替貯金口座東京一四〇〇五）

社告

豫て御愛讀を蒙り居候「新人」並「新女界」代金滯納の諸君は至急御送金被下度候 尚今後は必ず前金にて御購讀被下候樣願上度候 敬白

東京市小石川區小日向臺町三丁目九十三番地
新人社事務所

內外愛讀者諸君

東京婦人會附屬 同志看病婦會廣告

弊會先般左記の處に移轉致し從來の通り基督教主義に基き、內は會員の修養一致を圖り、外は患家の依賴に應じて懇切叮嚀其職に從はしめ、事業漸次發展致候儀感謝の至りに候今後も派出看護御希望の御方は何卒弊會へ御申遣はし被下度懇望之至りに御座候謹言

八月

東京市小石川區小日向臺町三丁目九十二番地
東京婦人會附屬 **同志看病婦會**
電話番町（一四八一）

基督教主義を奉じ看護婦免狀を有せらるゝ方にて入會を望まるゝ方は會長長尾糸子宛御申込みありたし

現代女子のたしなみ

海老名彈正

女子の感化力が如何ばかり盛なるかは、人々の思ひ半に過ぐる。良人に於る妻としての感化、子女に於る母としての感化、社會に於ける姉妹としての感化、よしあし共に恐るべきものがある。女子の自から侮る國ほど憐なるものはない。男尊女卑の時代であつたとはいへ、流石は武家の女子だけあつて武家相應に武家の娘たり、妻たり、母たるの心掛けあつて武士の品格をつくるにあづかつて力あつたことは、今更いふまでもない。現代の女子はいかにすれば時代相應の女子としてたしなみあるものとせらるべきであろうか、こゝに少々かきならべて見よう。

一

現代に限りて特別必要といふ譯ではないが女子としては何の世に生れても、なくてならぬことは、美術的思想を修養して

おくことである。女子は生れながら美術的でなければならぬ。先づその言葉の使ひようより聲色に至るまで、一通の鍛錬を經ねばならない。荒々しき聲色やひなびたる言葉の使ひようでは、その人品のほども察せられて、甚た聞きおとりがする。又その表情と姿勢とは最も謹むべきことで、之れが氣高く備らないでは到底淑女の資格あるものとはいへない。之につけくはへて髪形衣服等は深く注意すべきである。髪形の粗野なるはいふまでもない、そがまた餘りに流行を衒うて居るのは、何んとなく虚榮心の奥底が見透かされて拙ない。寶石入り黄金の指環を三つも四つもこてこてと指し並べて居るは甚だ見苦しい。况んや衣服の如き、ガラの氣品高きものを擇ぶ趣味がなくては到底俗臭の誹りを免れない。之を要するに女子は言語動作裝飾に於て高明にして美術的でなければならない。

二

淑女たらうと欲する女子は怠らず學識を開くことを心懸ねばならない。從來男子も女子も學問といへば學校にて學ぶことであつて、卒業した後は各々その職業を專一とし、所謂學問といふが如きは、之を修むる暇ないものと思つて居る。だから女子は人の妻となつては狹い意味にていふ家政の事に齷齪として、學問などに心をよすることは出來ないとする、否断じてよすることを好まないのである。妻としては家の掃除三度の料理、衣服の準備、何やかやに忙殺せらるゝ程に多忙なるはいふまでもないが、こゝを切り抜けて學識を開くことが眞にたしなみある、心掛といふべきであろう。かねて心掛がないときは、日々教鞭を取つて居る青年教員とても、忽ち時代の進歩に立ちおくれて再び學校に入らなければならないやうになる、學校の規則に照して叱責せられねば勉強のできぬものは憐れむべき限りである。そこで學問とはあながちに讀書ばかりをいふのではない、萬事に注意して學識を開くことであつて、實地の經驗の如きはその大部分を占めて居る。兎に角新聞を讀むことにしても、論説を讀んで見る心掛なくてはならぬ。女子といふと何にてもやはらかいものばかりを讀もうとするくせのあるが、之れは宜しくない。別に時勢論をせようといふ譯ではない。しか心掛るが正しいたしなみである、竊にこゝに注意して、良人の應接談話が傍より察せらるゝ位でなければ現代の淑女とはいへぬ。雜誌の如きも勉めて讀む必要がある、之を讀んで思想の潮流を多少心得て居らないでは、子供の教育に於て丸で暗夜をあるく心地がする。小學校に通う子供に侮らるゝようでは現代の母とはなれない。高等學校程度以上の子女を服從せしむる學識は現代

の女子として得難いことなるべけれども、中學生徒を心服せしむる位の學識なくては、現代に於ては母といふ母にはなれない。故に高等女學校を卒業して後、獨學する心掛ないならば、はやしおそしその學んだものをも忘れ、敎育なき平凡の婦人となり果つる外はない。けれども幸に心掛よければ、その學識に加へて年長者とならねば得られない經驗を積むことであるから、三十歳以上の母にはとても中學生徒の及ぶものではない。數學にても應用に注意し熟練すれば、常に中學生徒以上に居ることは疑ひない。

三

此上道德につける熟達となつてくれば、心掛さへよければ、その進歩や實に驚くべきものがある。女子も妻として嫁として母として克已の修養を積むときは、その品格の鍛錬は驚く所の點まで上達することが出來る。是非の見分も明になるべく、利害の判斷も確になるべく、良心の光明いよ〳〵啓發し來るときは、所謂賢母の品格も自からそなはつて、高等學生は言ふまでもなく、大學生と雖も遙に及ばない人格を有することゝなる。道德ばかりは必ず學校に限つて學ぶべきでない、また讀書せねば得られぬ譯でもない、日常彝倫のことに於て修養することが出來る、臺所も道場とすることができる、食堂も敎室となることができる、一進一退一擧一動として道德の修養とならぬものはない。女子の最も賴みとする所の本城は此道德の修養に存するので、こゝにそのたしなみの秘訣を自覺するは女子の最も心懸くべき所である。

四

基督敎に歸依する女子がその修養上に於て、そのたしなみを深うする點に於て、最も幸福なるは日曜日毎に會堂に詣で、聖書の講義を聞き、有識の說敎を聞き男子と偕に禮拜を事とすることである。女子の性格に於て善なる、眞なる神に熱中し、この神を心の底から至誠をこめて崇拜するといふほど、尊いことはない。この根本眞理に信賴して動かないのは、女子たるものゝたしなみに於て最も重大なるたしなみとすべき所である。この眞面目なる精神を懷いて說敎を聞き聖書を研究するは、獨り此精神を啓發するばかりでない、同時に道德上の知見を研き、世間の思潮に通ずる好機會となる。之を要するに淑女たらんとするには、出來うべき丈迷信を脫しなくてはならない。自己の理性に信仰の根據を見出し、良心に於て神の聲を聞き得ることが肝要である。

現代の女子は是等のたしなみを深うせねばならない。之を有する女子は獨り日本に於てのみならず、海外に遊ぶことあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るとも、毫もおくれを取らないのである。海外淑女のうちにあつて氣おとさる心地するようなことでは、現代のたしなみある日本女子とはいはれない。

一時的生活と永遠の生活

安井哲

一 子供の生活と大人の生活

子供の傍にお菓子を置けば、假令其れが己の健康を害する物であつても、熱心に之れを請求して止まぬのは吾々の常に經驗する事であります。然るに此として は母親が之れを制しかねて「自分の身體を害する物をかく欲しがるとは、何といふ道理の解からぬ兒であらうか」と歎かれるのを聞きますが、吾々大人も亦能く之れに類した行爲をする事が御座います。即他人から見ます時には、必後悔の種になるであらうと思はれる事を思慮なく行つて、終には親兄弟に心配を懸けたり、又は自分自身に苦勞の種を造つて、煩悶したり、自殺したりする人々は、日々の新聞紙上に數へ盡せぬ程多くあります。

二 文明國人と非文明國人との生活

文明國人と非文明國人との生活狀態を比較して見ますと、宛大人と子供との生活狀態に類似した點があります。即文明國人は永久的に事を計畫する傾を有して居りますが、非文明國の人民は現在而も瞬間に對して生活して居ます。其故に文明國人は商賣をするにも、永久の繁榮を望みます故に、信用を第一とし、信用を得る爲めに正直に賣買します。英國で私が衣服を仕立させつけた某店などは、實に大きい店でありますが、其主人の正直な事は有名で、日々能く店の各部を見廻り、店員達が能く客に親切であるか無いかに注意します。此店に就いて一美談がありますが、曾て一婦人が立派な衣服を注文致しましたのに、出來上つて後其服の色が注文した色と極少し異つて居たといふので、不平を申込みました。處が其主人は非常に氣の毒に思つて、直に其衣服を取戻し、二週間許の猶豫を請ひ、新に望通りの衣服を仕立てゝ與へたといふ事であります。御存じの通り、婦人の洋服は其人の身體に能く合ふ樣に製りますから、取戻した服を都合よく買ふ人が有るか無いかわかりません。其故に之れが爲め或は數百金を損失せぬとも限りませんが、其主人は「子孫に傳ふべき吾家の信用は決して數百圓の損失には換へられません」とて毫も之れを氣に懸けませんでした。それで此店の品物は他よりも寧高價であるに係はらず、信用の出來る店として、心ある人

々は故さらに此國に買物に行きます。然るに非文明國人の商賣の仕方は、一時の利而も不相當の利を得て、却つて店が衰微する樣になります。甲は即生活の目的を永遠に有ち、乙は其瞬間に目的を置いて生活する例であります。

三　眞面目なる生活

そこで吾々が眞面目な生活に入るには、先第一に一時的の生活を避けて、永遠に生活の目的を置く事が肝要であります。詳に云ふ時には、吾今日の生活は吾一生の一部分即吾一生の歴史の一部分になる者であつて、今日限りに消ゆる者でないといふ事を考へ、無分別無責任な生活を避けねばなりません。今學生に就いて例を擧げますれば、平生怠惰で試驗の時だけ通過すればよいと考へ、一時免れのみの生活をします時には、假令僥倖にして、無事試驗に及第しても、其學生は一生の中に怠惰、無責任の生活を爲した者であります。かゝる人々は結婚でもしてしまへば、學生時代の生活狀態はどうでもよいと考へるかも知れませんが、決してそうでは御座いません。一家の主婦となつた場合にも、一時的生活の習慣で、誠意誠心を盡して、舅姑に事へ、夫を助ける事が出來ませんから、或は不和の悲みを經驗せねばならぬ樣になります。然るに若學生時代に自分が爲すべき事は、出來る丈の力を出してしやうと覺悟します時には、自然何事でも熱心に修學する者であります。加之此精神は學問にのみ關するのでなく、一生を貫徹した主義でありますから、其境遇に應じて事の大小に關はらず、業の高下に依らず、熱心に其業務に從事する樣になります。

又社會に獨立生活をして居る人に就いて申せば、誠實に天職を盡し、良心の滿足を得やうと覺悟します時には、假令不幸にして、賤しき職に從事せねばならぬ場合でも、一心に之れに從事し、又責任の重い職に從事する場合ならば、殊更眞面目に其職責を盡さうとするのは、是等の人々の自然の傾向であります。然るに如何なる一生を送らんかの目的もなく、唯一時的の生活に甘んじますと、責任ある職を奉ずる知名の人々でも、時としては誘惑のために一生の方向を誤つて、妻子に嘆きを與へるは勿論　朋友知己に面を合はせる事も出來ぬ樣になるのであります。

一時的誘惑に陷つた人が、永久の幸福を續ける事の出來ぬのは、日々の新聞に出る記事でも明であります。僅の時日道ならぬ慾望の滿足を得やうとして、之れから生ずる永遠の苦勞を豫想する事の出來ぬのは實に憐れな次第であります。一時の慾望に打勝つ苦しさと、之れを充たして、それが爲めに得る不名譽や、良心の煩悶と其輕重を比較して御覽なさい

甲は高尚な苦痛で其中に滿足があり、乙は悔悟の苦痛で無限の悲を含んで居ります。そして一は其終りを全うし、一は其終りを亡ぼす者であります。

四　一時的成功の爲めに思を煩はさぬ事

私は年の若い方々と共に、努力奮勵して無意味の成功を得やうとしたり、根もない他人の賞讃などに心を奪はれず、自分の一生を通じて正しい歷史を作る樣に勉めたいと思ひます。お互に人間である以上は周圍の刺戟に依つて、種々の慾望も起り、煩悶も生じますが、吾々は其慾望や煩悶を統轄する一大主義を始終失はぬ樣にせねばなりません。即其主義は正しい道は假令如何なる困難があつても、必之れを踏まねばならず、不正の道は假令一時的の榮華が伴つても、斷じて之れを避けねばならぬといふことであります。かく申すだけでは實に容易でありますが、實行は實に至難で、高尚な人物であると友人間に信用せられて居た人も、時としては迷ふ事があります。況して吾々の如き平凡の人間には一層の困難ではありますが、併熱心に實行しやうと覺悟して出來ぬ事はありますまい。そこで私共は有名な或說敎者の云はれた如く「如何なる場合でも眞に誘惑物を厭ふ樣な第一等の人物」になり得ぬまでも、先第二流の人物として、せめては「若かゝる行爲をしたならば、自分の一生の歷史に傷がつきはせぬか」と反省して、萬一自分の人格を傷くる樣な結果が起ると想像すれば、努力奮鬪して之れに打勝つ樣に致したいと考へます。かくする中に次第に誘惑を厭ひ、常に正道を踏むの傾を生ずる樣になるで御座いませう。

無題錄

◉「秋來ぬと目にはさやかに見えねども、風の音にぞ驚かれぬる」、三伏の大火西に流れて、梧桐の影何時しか婆沙たり。昧爽牖戸を排すれば庭内の秋氣身に迫るを覺ふ。

◉夏は空想の時也。旺んなる生命の樂々として發展する時也。夏は我を自然の生命の中に見出さんとす。大なる生命は夏の福音也。秋は瞑想の時也。觀想の時也。身神共に勞作に適す。或は輕裝短靴秋郊に野趣を賞するも可、或は中宵兀坐蟲聲を友として聖賢の書に對するも可。

◉秋の福音は實在の感也。秋の自然は何を吾人に敎へんとする乎。見よ夏時の勤勞と生命とは、今や疊々たる結實として現前するに非ずや。黄金色なす穗波はさや〳〵として勤勞の空ならざるを語るが如し。

◉吾人が眞なる生命は空しく消ゆべきものにあらず、その眞なる努力は虛しきものにあらざる也。其時來らば吾人は自らが渴仰憧憬せし姿となれる、「眞實の有樣」を見ることを得べし。

◉さらば友よ、吾人をして此秋に於ても、吾等が靈性のため眞實なる一段の修養を深うせしめよ。（愛）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

思想

女子の高等教育に就て

元良勇次郎

吾國の女子に高等の教育が必要なることは既に古い問題であるに係はらず、今尚往々世人の誤解を招ぎ其の効果に疑を挟む者が少くないやうである。併し余は廣く之を言へば女子にも高等教育はなくてならぬと思ふ。

或る人々は近來高等教育をうけた女子の氣風が面白くないとか、又は其の間より一種特別な新型の性格ある婦人を輩出するとかいふて、早くも女子の高等教育其物に對し悲觀説を立てる人もある樣であるが是れ丈の事で高等教育を排すると云ふことは出來ないと思ふ。若し假に此等の人々の所見に一歩を讓りて、女子高等教育の結果が世人の豫想した程派でないとしても、それは高等教育其物を排する理由とは毫もならないので、それは教育の方法其の宜しきを得ない結果であるから、益々教育を盛にし其の方法を研究して、其美果を收めるに若くはないと言ふの外ない。次に世人が現時の女子高等教育に疑を挾み漠然たる感情を以て其の新型を排するもの丶中には、古來の習慣たる女大學流の型にはまらないといふ人も少くないであらう。吾國現時の社會では婦人に對する世人の思想の標準は彼の女大學の思想によりて隱然支配されて居るであらうと思ふ。故に少しでも此思想に違へば、世間から兎や角いはれるのは、必しも高等教育をうけた女子に限らないので、初等教育中等教育をうけた者でも、批評をうける時はうけるのである。又高等教育の結果或は婚期を誤りて彼等の擯斥する一種新型の婦人を產し、生涯獨身で了るやうな老嬢を輩出するといふて、高等教育攻擊の材料とする人もあるが、それは毫も心配するに及ばぬと思ふ。社會が進歩するに從つて、世は益々複雜となるのが當然である。從來と多少異なつた型の婦人が出づるも當り前の事で、高等教育其物が既に從來の慣習を破つた事であれば、其の產物も亦多少

新しい色を帶びて居ることは免れないことで、別に愕くに足らないと思ふ。若し自分の行動に責任を重んじ廣き常識を有するものであるならば、新型の婦人を輩出したからとて決して社會は之を憂うるに足らないとであらう。

是故に余は悲觀說は採らない。否寧ろ現時吾國の中流以上の家庭の女子には、概して高等敎育をうけさせることが必要と思ふ。高等女學校程度丈の敎育ばかりでは、凡の方面に於て未だ足らない所がある樣に思はれる、外國のカレーヂなどは吾國の高等女學校程度の上に少くとも三四年加へた樣なものであると思つて居る。只女子の高等敎育は餘程注意を要することは明かである。それは男子の高等敎育と異なり、女子特有の六ケしい所があるからである。男子ならば中學校以上の高等敎育をうけるにしても、只其好む所に從つて、或は醫學を修め或は土木工科を修め、其他文學に政治に各々其撰む所に從つて、他日社會に立ち職業を得るの道を進めばよいのである。然れ共女子に於いては之れと同樣には行けない事情がある。如何に其性向が文學にあるからといふて、文學ばかりを專攻して居ることは出來ない。又家政學丈を修めれば、それでよいといふとはない。文學に趣味を有する者も、家政や技藝や育兒の事を心得て居らねばならないし、技藝に熟達し易い者でも文學敎育の素養をも要する。畢竟するに女子の

天職はどうしても一家の主婦として、家政育兒の上にあるとは否定されないことであるから、只一科一藝の專問的敎育を授けて、男子と同樣にすればよいとは云はれない。要するに高い敎育を授けると共に、廣く亘りて一方に偏せず廣く常識を養ふことを務めねばならぬのである。

さりとて余はたゞ所謂良妻賢母主義の敎育のみで宜しいといふのではない。高等敎育は高等敎育で、何處迄も人として知識の啓發人格の養成を女子にも必要とするのである。只或る型を目的として敎育するばかりでは、動もすると人としての敎育を忘却する處がある、型に嵌め敎育は其特種の場合にはよいかもしれないが、一歩其場合以外に出づれば融通の利かないと云ふことがある。故に女子の高等敎だは、一層高く之を進むると共に、又一層之を廣く發展せしめて、常に一方に偏せず凡の方面に對して廣い趣味のある、豐谷圓滿なる性格の婦人を作らねばならんと思ふ。

女性の逆理

（女性を理解する秘鑰？）

村田　勤

佛朗西の哲人パスカルが人間を評して下の如く言つた。「人

間は何たる怪物であらう。如何に複雑なる渾沌界であらう。何たる撞着の題目であらう。有らゆる事物の審判官と自稱しながら、實は地球上に棲息する弱々しい蟲に過ぎない。眞理の貯藏者であり又守護者でありながら、實は人間其者が不確實の凝結物ではないかア、人間は宇宙の光榮にして同時に之を辱しむる者である』と。然り人間は眞にパスカルの言つたやうに、自家撞着の性質に富んで居る。女性に於て予は特に此事實が著しいやうに思ふ。予は此事を以て女性を理解すべき秘鑰であるまいかと考へる。

女子特に良い家庭境遇の中に人となつた女子は、いつ迄も大人と小兒の兩性質を有て居るやうに思はれる、妻は夫より年の若いのが世間の常例であるが、妻は夫に對して二個の反對した相を示して居る。或時は全く小兒が親に對するやうに、女性は男性の助力と保護に信頼しその愛を得んと努むる傾きがある。或時は之とアベコベに、甲が乙に對して顧問官の如く輔助者の如く、たまには女王の如き地位を占むる事がある。或人のいへりし如く女子は何歲になつても大きい小兒であるといふ事は、女性の半面丈を穿つた眞理で、その全貌を掩ふて居ない。女子は大きくなつても小供らしい。俗諺で言へば甘え易い性質を備へて居ると同時に、若い時分から大人なびた、即ちませ易い傾向を有つて居るやうに思はれる。

此反對の兩性を失はない處に女性の美が存するのである。すらりと良い境遇に生ひたちて清く美はしいホームを持ち、充分に信頼し居べき貞潔な夫を有つて居る婦人は、いつまでも此若々しいしほらしい人を魅するやうな良性質を永く保存する事が出來るのである。予は敢て再言します。女性の美は確かに此一見反對なやうな兩性質の調和に存する事を。

此外女性の上にあらはるゝ逆理はいくらもある。女子はやさしいやうで強い、柳に雪折れなしである。形にたとへて見ると、男子は太く短く強いが、女子は細長く強い。男子の強さは竹のやうで、女子のは藤蔓のやうである。長壽者に女子が多いと云ふ事實には、種々なる他の原因もあらうが、女子のねばり強い事をその原因の一に算へて間違ひでなからう。大事に臨んで度胸の据はる事は、男子よりも女子の方が勝て居る。女子は思ひの外横着な處がある。非常な場合は暫く措いて手近い例を擧げて見やう。たとへば結婚の時の見合ひとか、一身上の進退に關係する大切な試驗を受けるやうな場合には、勿論人にもよるが、槪して女子の方が沈着いて居る。此事は〻年中等教員檢定試驗委員の職にある某氏の實驗談である。誰れでも少くとも一度は經驗のある、或は經驗する筈である例の會見の場席で、年盛りの屈强な男子がぶる々々やるのを往々見

受ける事があるが（但し不品行なすれからしの男子には此事なし）女子には極めて罕である。表面は左もおはもじそうでありながら、女子の度胸の据はり様は到底男子の及ぶ所でない。元來直情徑行は女子の天性でないから、日常彼等が小さい事にビク〱したり、狼狽したり、つまらぬ事に男子の助力を求めたりする樣子を見ると、膽力の据はつた女子などは曉の星のやうに思はれるが、夫れは平生女子の多數が其本性を顯はさないからである。イザといふ場合には女子に仲々膽力のある者が多い。膽力丈でない腕力も仲々出る。火事の時に、女子が命にも替へ難い大事の衣類の入つてゐる重い簞笥などを、やす〱と動かした例は、枚擧に遑あらずである。是は畢竟不斷は仕舞つてあるトツトキの力が一時に勃發する爲であらう。執着力の強いのは女子の特徴である。女の念力岩でも透ほすといふ諺は正しく此特徴を穿つて居る。愛情に於て強い者は憎惡に於ても強い。憎惡は愛情の裏である。幽靈に女性が多いのはその一證であるまいか。勿論是れは我邦の習慣として、男子が無理壓制を行つて弱い女子を苦めた事か多い爲でもあらうが、兎に角怨靈には女性が多數を占めて居る。取も直さず一志貫徹の精神の熾烈な事を證明する材料にならう。

古來兇暴殘忍なる罪惡を犯した者は無論男子の側に多いが、陰險姦黠なる又時としては最も戰慄すべき冷酷な罪惡をたくんだ者は反て女子の側に多いやうである。蟲も殺さぬやうな女性が實に鬼々しい惡事を敢てする事がある。勿論こんな場合には女子はその本性を失つて居る。其『順性の用を變へて逆性の用』を爲すのである。又一旦墮落して自暴自棄になつてから改心させ易いのは、矢張女子よりも男子である。女子の破廉耻になつた者は始末に了へない。又世人は概ね綿密にして能く氣がつき行き屆く點や、叮嚀に物事を處理してやりつぱなしでない事などを、殆ど女子の先天的特性であるかのやうに思ふて居る人が多いが、實際その反對の例を發見する場合が多くある。

以上の如く、予が女子の天性の上にあらはるゝ幾多の逆理を列擧したのは毛頭女子を侮辱する了簡でもなければ、女性を呪咀する考でもない。奥深く女子を研究してその改善敎導の途を圖らんとする事が予の本志である。抑も女子の優美なる性格には生得いた部分と敎養に由りて得た部分の兩側面があること勿論なるが、予は寧ろ後者に重きを置くのである。即ち女子の美點の大部は敎養の力に歸せねばならぬ。敎養とは極廣い意味で、父祖の遺傳、家庭及び交友の感化、學藝修養、宗敎等の諸元素を包含したものである。女子には男子に見るべからざる一の處女性といふものがある。良い家庭で

素直に人と成つた女子に於て、特に此性質が美はしく花咲きかほるのを認める。その美はしいかんばしい氣高い或ものは女子の爲に二とない寶であつて、やがて良妻賢母を形造るべき要素はその中に含まつて居る。此處女性が妻の生涯に於ては貞淑となり、母に在りては慈愛となつてあらはれ、雪をいたゞく老齢に至るまで尚その處女時代のあどけなさを、嬌々しい容貌に留めるのである。其實例は世間に澤山ある。然るに此美はしい處女性の蕾は甚だ破れ易いもので、慳貪無教育な親達や、家庭に起る不幸や、過度の貧苦や、自らの不心得や、惡人の誘惑等に由りて之を破損する事がある。女子がその天性の美を失ひて、冷酷、粗野、驕慢に流れ、放埒になつたりするは即ち處女性を失ふた爲である。世間は此の如き女子にをきやん、お轉婆、蓮葉女等の惡い綽名を附して之を擯斥する。是に於てか彼等は愈々自暴自棄になつて墮落を極め犯罪を重ぬるのである。かくの如き女子が長じて山の神、嬶左衞門尉となり、老いて益々邪慳に、遂に鬼婆となり了はるのである。女子にしてその本來の美質を有せざる者は、過去に於て何か不自然なる歷史を有つて居る。自然順當なる處女性の發達を妨げられた事がその原因を成したやうである。世間には男まさりの婦人がある。彼等の中には女傑として貴ばれて居る者もある。その意氣は實に有髯漢をして顏色なからしめ、その事業は永しへに稱せらるべきものもあらう。巴板額の如き、春日局、近くは奥村五百子の如きはその適例であらうが、我等はかゝる女傑を以て一般女性の模範とする事は出來ない。彼等は除

外例である。男子の中に女らしき人がある如く、女子にも男らしい人のあるは當然であらう。恐らくは造化の過誤であつたかも知れぬ。しかし我等は女傑の性格に於て女性美を發見し得ざる場合が多い。若し男女兩性を兼ね備へて双方の特色を失はない者ありとすれば、夫こそ人間以上の者として仰がなければならぬ。通常の場合に女性がその均齊的發達をせずに、一方の極端に逸したとするならば、夫れは必ず不自然な結果を生ずる。而して不自然の中に眞の美を發見する事は出來ないと思ふ。但し人性の上にあらはるゝ自然といふものは決して本能任かせといふ譯でなく、理性によつて統御せらるゝ感情の自然的發展を指すのである。

終りに今一つの女性の逆理に就て言はう。裝飾は女子第二の天性である。三四歳の頃から女兒ははやくも衣服の事に目がつく。諺にいふ藁人形も衣裝からとやらで、女子は裝飾次第で眞に見違ふやうになる。女は魔物である。男子を魅する魅力を備へて居る。そんな實例は歴史上に數限りなくある。エドモンド●バークの云つたやうに、技巧は人の天性であるが、就中女子の天性であるやうに思はれる。扨是ほどまで裝飾的慾望の盛んな女子はどう見ても、審美眼とか、文學的趣味とか、音樂を味ふ能力とかいふ點に於て男子に優るべき筈に思はれるが、事實はそうでないやうである。かういふと教

育ある婦人方はサッホー、アスパシア、チョルヂ●エリオット、ブラウニング夫人、ビーチャー●ストウ夫人、マダムドスタチル、紫式部、清少納言、近くは一葉女史などの例を引いて予に反對さるるかも知れぬが、予の方にも此攻撃に應ずる丈否夫れに數倍する材料があるやうに思ふ。然しそんな水掛論は暫くさし控へまして、婦人方に御尋ね申したい。諸君が日常身のまはりを飾られて居る絹布類を始めとして、指輪、ブローチ、その他の裝飾品を作つた人、將たその柄模樣などを考案した意匠家は、女子と男子とどちらが多いでせうか。予はいかに謙遜に考ふるも男子に軍配を揚げざるを得ない。成程女子の中に美を理解する能力に卓ぐれた人もある。高尙な趣味を備へた人もある。音樂に長じた人もあるが、彼等が美裝欲の旺盛んな事實に比例を取つて見ると、美を味ふといふ點に缺けた人が案外多數であるやうに思ふ。その重なる理由は女子が徒らに美を獲得せんとする慾心の强き割合に、徐ろに美を解せんとする能力の不足なるに座して居るだらうと考へる。我日本女子大學に於て、特に斯道の大家大塚博士が美術史の講義をして居らるゝのは蓋し女子に通有なる此一大缺陷を補はんとする微志に外ならぬのである。

秋立つや中に吹るゝ雲の峰

修養瑣談

野口末彦

繼續せる修養

▲修養は人間一代の仕事で、青年時代に限られたものではない。學校教育がすんだ後にも、物を學ぶ精神が衰へぬと云ふより、寧ろだん／＼殖へてゆく樣になくてはならぬ。取別け心を磨き、身を修むる精神上の事に於て、其要を認むるのである。

▲少年に於て美質を愛でられ、青年に於て溌溂の英氣を歌はれたる人も、齢を重ね世路の經驗を積むに從つて、却つて其人物に見劣りの生ずることも世に其例乏しからず、才媛賢婦と謳はれし人でさへも、動もすれば其人品の光輝が減じて、何となく俗氣が増して來る樣に覺えらるゝ實例もなか／＼多くある。

▲之に反して、齢古稀を超へ目に於ても耳に於ても、衰弱を來たし不自由を覺ふる老境に達しても、修養の一念輝いて居る人は精神常に活潑にして、何事に臨んでもはき／＼としたる處置が出來る。其若々しき氣象が青年も及ばぬ程であるのは、畢竟絶えず倦まず修養を繼續して居るからである。修養を繼續する人は、惡しき遺傳や習癖を有つて居ても、年齒と共に見上げた人品となり、修養を繼續せざる人は、名門の血統と美質を有つて居ても、永き日月の間に其美點を失ふものである。修養は實に一代の事業、油斷もすきもあつてはならぬ。

▲今は故人となつた余が知れる老婦人は、七十歳を超えて困難なる某私立女學校の校長の任にあり、生徒と起臥を共にし教育に盡瘁して居られたが、此老婦人には一たび接したるものが忘るゝことの出來ぬ一種の感化力があつた。それは外でない、即ち修養の精神の盛んなることである。年若き人と語つても、生徒と物語りをした時でも、此老婦人は毎も「あゝ難有く學びました修養になりました」と眞情からの感謝を發せられた。萬事此調子にて修養に資せられたのである。接する人はどうしても其精神に感化せられざるを得なかつた。修養の德は斯る人に於てしみじみと感得することが出來るのである。

言語と感情の修養

▲うるはしき言語とうるはしき感情とは、相伴なうものである。時としては、うるはしき感情を有する優しき婦人にして言語の修養なく、野鄙なる言語を用ゆるものもないではない

これは多く山里や海邊の、交際尠なき處に生活する人にある

▲併し苟くも多少の教育あり、人仲に出でて物言ふ程の人であれば、多くの場合に於て、其人の言語は其人の感情を表はすものである。言語のはつきりとしてうるはしきは、其の心情の清くうるはしきを思はしめて、云ひ知れぬ床しき快感を人にあたふるものである。之に反して其言語の野鄙にして亂雜なるは、何處にか感情のうるはしからず、心の落ちつかざる樣が見ねすかされて、不快の念を人に與ふるものである。

▲單に野鄙亂雜と云ふばかりでなく、世には不注意に人の人物を批評し罵詈して、格別罪とも思はぬ人が男にも女にもある。是は甚だ善からぬ事である。うるはしき感情を貴ぶ婦人に在つては、特に注意せねばならぬ。

▲言語は實に人の人格を表現する大切なる利器であると同時に、又た人を殺す兇器である。人を活かし人を導くも言語、人を陷れ人を殺すも言語である。基督が愚者狂者と呼ぶ言語が、殺人罪の一因であることを指摘せられ、人を譏し人を誹る者の罪惡を戒められたのは決して偶然でない。

▲うるはしき感情うるはしき言語、うるはしき言語うるはしき感情、どちらから云つても、これは花と果の關係である。吾人は此詞に接する丈けにても、涼しき想が生ずる。これが修養を怠らぬ樣にしたいものである。

功を急がぬ工夫

▲世の間の事は有形無形何によらず、思通りに成し遂ぐることはなか〳〵に六つか敷ものである。事、志と違ふことが隨分多い。是に於てか我等は、功を急がぬ精神上の修養が大切であると思ふ。言を換へて云へば、我が分を盡くして、時を俟つの覺悟が肝要である。

▲時間は實に神の恩賜、神の支配、神の裁判、神の祐助を表はすものである。孜々として我が分を盡す人に在つては、時間ほど貴き賜はない。俟つと云ふことは、天祐を確信して働くことである。功を急がぬ工夫は、此時間の恩賜――天祐を信ずる處に根據を据へねばならぬ。

▲何故に功を急いでならぬか、我が一身上の事を顧みても、自由にならぬは、萬人の等しく經驗するところである。まして人情反復變轉極りなき社會を相手にして事を成さんとする者が、どうして急に功を奏することが出來ようか。例へば教育事業の如き、人の子を一堂に集めて比較的自由に取扱ふことが出來る仕事に於てさへ、容易にその効果を擧ぐることはできぬ。其他の事は推して知らるる。

▲そこで性急の人や才氣ある者は、功を急ぐ心が焦ち種々の謀計をめぐらし見て、それでも行かぬ時にはとう〳〵横道に

ふみこむ樣になる。しかも其結果は失敗に終らざるもの稀れである。畢竟是れ、人情反覆常ならぬ復雜の社會を解せぬからであろう。

▲併し時來れば、又効を奏すること、案外にたやすきものである。運、鈍、根を以て商賣の秘訣とするも其所以である。我等の精神上に於て、幾度か矛盾を感じ煩悶を覺わ、我が理想方針を疑ひ、誤里霧中に逍遙する樣なることは、一生中に幾たびあるか分らぬが、此危機に於て思を無窮の天地に馳せ時間の恩賜と云ふ事に眼を著くる時、始めて我等の精神が迫らぬ樣に、悶わぬ樣に又隨つて功を急がぬ樣になるのである「鳴かざれば鳴くまで俟たう時鳥」是れが德川三百年の基を拓いたる精神である。理想は忽然として顯はれて來ない、しかし時間は間斷なく經つてゆく、此たわまなき時に任せて、勵み、進み、俟つ、これが功を急がぬ工夫であると思ふ。

米國男女學生々活

谷津直秀

日米學生の反對

米國の學生と日本の學生とを比較して見るに、第一に著しく氣の付くのは、日本の學生が試驗と勉强に壓迫されて、宛も一種の僧院生活の觀あるに反し、米國の學生は一體に悠容迫らずのんびりとして、大學生でも子供らしい所がある點である。單に學生ばかりではない、商店に勸めて居る若者でも、青年といふ青年は如何にも人生の春に出遇つたといふ氣持で、頗る愉快らしく見わる。彼國の青春の男女は何れも、此二度とは得られない時機に於て、人生を心から享樂するといふ風が見わる。

青年男女の交際振

人が集つて遊ぶ時に男性許では左程樂しいものでない。女子の方にても、女子許集つて居ると、どうしても禮儀を紊り不作法になり易い言語が粗末になつたり、髮が亂れ衣裝がくづれても構はないといふ樣になる、是れは娘をもつた母達の非常に嫌ふ所である。それで集會をして樂むにしても、男女偕に會合して正しい禮儀の中に、淸い精神上の樂を得る樣にするのは、修養と娛樂とを兼ね、一擧兩得の策である。そして青年男女を集めて樂しく遊ばせるといふのは、多く母親其他年長婦人の腕前に依るのである。男女交際の機會としては先づ各家庭の集會といふものが主なるものである。殊にクリスマス頃からイースター前迄位の冬季には　毎金曜の夜は殆

と、舞踏とか音樂とかの小集會のため費されるのである。彼國では土曜は大抵學校が休みであるし、日曜には教會に出席するといふこともある故、土曜の夜よりも金曜を撰ぶのである。で娘の母親は其の友人たる男女の間に通知して來て貰ふ普通は十五人乃至廿人以内の集である。家庭的の音樂や舞踏をやつた後輕い晩餐又は茶菓を出す、歸りには男子はなるべく女子を家まで送つてやるのである。斯る會合に於ても、男女交際の禮法がチャンと定まつて居る。殊に大切なのは、男子の方からいへば、女達の中で殊に目立つた美人とか、快活で怜悧な女がある時に、假令親密の間柄でも其人の傍に許り居つて談をするといふことはいけないのである。要するに獨占するといふことは大の禁物である。偏頗なく平等に談話するといふのが、交際の規則なのである。斯る場所で交際の上手なのは醫師と牧師である。流石に職業柄だけあつて決して人をそらさず、平等に公平に愛嬌を以て交はり、人に快感を與へることは實に巧なものである。

時とすると特別に相手を定めた集合をする時もある。例へば五人の男子があるとすれば、他に五人の女子を招ぎ、それぐ\談相手を定めておく。定められた人は他に自分の好く人があつても、自分の定まつた相手を顧みないで、其方に許り談かけることなどは無論出來ない。

此等の集會には何人でも行かれるといふことはない。言語擧動が粗野とか、或は德性に疑はしい點のある者は決して招かれない。又平素斯る人が訪問して來ても只通り一遍の挨拶をした丈で、決して娘に近ける樣なことはしない。

附添夫人

斯く米國では青年男女の交際の道が開けて、如何にも自由に見ゆるが、併し決して靑春の男女は何時何處でも、野放し的に自由し交際が出來るものでない。家庭の集會に招待された時でも、年齡十九才頃迄の處女には、大抵附添夫人といふて、席上に於ける處女の保護者たる婦人が附いて居て、交際を監視して居る。此役には普通處女の母又は叔母などが當る青年が處女を散歩に誘ふといふ時には、此婦人に同行を願ふのが禮である。若しシャプロンなしに同行を乞はれた時は、娘の方から辭はるべきである。斯く此の婦人は常に彼等青年男女に附添ふて、其處女を保護するので、青年男女の方からいへば、シャプローンは實に彼等の目の上の瘤ともいふべきものである。併し此の瘤があることに依て彼等は自由の中にありて誤らず、亂れず、正しき道の上にあつて、淸く樂しい交際を結ぶことが出來るのである。夏季女學生が男子達と山中や湖邊に天幕生活に出かける時には、廿五才位の處女にも

此際添夫人が同行する。斯る時は五人位の女學生を引受けて保護監督する、專門の婦人を傭ふこともある。

此他男女學生の交る機會は、冬季ならば氷滑り、春秋は打球、馬車乘り、舟漕ぎ等がある。或は綠蔭深き所に嫩草を藉きて語り、或は靜風徐ろに來りて漣波をあぐる水上に端艇を操り、或は黃葉點々たる並木道を同乘し、輕裘白馬相牽ゐて其生を樂しむ樣は、如何にも自然の趣があると思はれる。

男女共學

米國の女子は高等女學校を卒業すると、大抵カレーヂに入る。今から二三十年前頃高等女學校に入る數位の女子が、今日ではカレーヂに入るそうである。詰り中流社會の女子はカレーヂ教育を受けるのが一般の習である。高等女學校を卒業するのが、大抵十九才でカレーヂは四年かゝる。カレーヂの教育は吾國の高等學校、女子大學の樣なもので、高等女學校の教育程度を高くしたものに過ない。高等女學校では拉典語や、希臘語は僅に其初歩をやるが、カレーヂになると古典文學の研究をする。米國學生の氣風が一體に迫らず典雅な點のあるのは此古典文學の影響であるまいかと思はれる。高等教育を受ける女子はうけない女に比して、一體に體格が良く發達して居る。之は精神を智育の方に集注して、他に意を向けない故であるが、概して米國の女學生は十八九位でも、其心持は日本の十三四才の少女位である。頗る無邪氣であるから、交際も仕好く、氣が置けないで心持がよいのである。

カレーヂで男女共學をして居るのは、東部には尠ないが多くは米國の西部に行はれて居る。男女共學を良しとする說の一ケ條は、女許の學校に入れると禮儀を覺わず、粗暴な性格を作る、男子と共學すれば此點が大に改まり、淑やかで女らしい性格を得られるといふにある。男子の方でも女子が教室に居れば大に愼むことあるのは實際である。男女共學の學校では、大概女子の方が成蹟優つて居る。

四種の女學生

米國の女子は廿一二才で大抵約婚し、カレーヂを卒り廿四五才で結婚する。カレーヂを卒業して後、大學に入り專門の學問を研究するのもあるが、彼等も大抵結婚する。女學生は自づから其氣質に依て、四種に分類することが出來ると思ふ。第一は家庭的女子で所謂世話女房的に出來て居るものである。第二は交際的女子で其文學的素養も左程深からず、又學問も深くないが、人をそらさぬ愛嬌あり、言語擧動凡て優美にして、交際振が頗る上手なのである。其の代りに臺所や家政のことなどはから駄目の方である。第三は文學的女子と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いふべきもので、文藝に趣味を有て、何か談話といへば直ちにセキスピーヤとかテニソンとかをかつぎ出す方なのである第四は科學的女子ともいふべきもので、科學に趣味を有つて居て、動ともすると朝早く起きて露滋き草を踏分け、林に鳥の聲を聞いたとか、或は蜘蛛を探して廻つたりする女であるが、此等は一種の流行的好奇心とも見られるのである。概して第一の家庭的女子を除いては料理番のない家には御嫁に行かれない連中である。此の四種の女學生を通じて特に一頭地を抜いて、學生間に幅を利かすものは運動家である。米國學生の運動熱は非常なもので、男子で女子に持てるのは運動家が一番である。女子の方でも運動競技に勝れて居るのは、學生間に評判がよい。

カレーヂに入らぬ女子で實用的學習をなすためには、セミナリーといふものに入る。此處では短時間で文藝とか、家政とか料理とか其他實用的の教育を施すので、之に入るものも尠くない。

此他學生々活としては各級に舞踏會があり又音樂部や、文學部や討論會、其他、ベースボール、テニス、打球、端艇等の遊がある。

一旦學校生活をした人は特有の氣風を持つて居る。此人はカレーヂで教育をうけた人だらふと大抵推測されることが出來る。ハーバート大學の教授ミユンスターベルグは獨乙人であるが、彼は米國のカレーヂは實に一の不思議である。此處に原料として這入つたものが、三四年の後には一の完全なる製作品として出て來るといふた。確かに各々のカレーヂは其學生に單に學位を與ふる許でなく、一種の校風を以て極印を捺すのである。而して斯る愉快で親密なカレーヂの生活は都會の大なる學校よりも、田舍の小なる學校に於て、より多く味はれる。余が若し米國の學生々活を再びすることありとせば、余は躊躇せずして小なるカレーヂを撰ばうと思ふ。

（談話筆記）

少女日記　一

七月廿二日　木曜　晴　今日は十時頃からいろ〱仕度をして千代おば様姉様と一しよに大きなお荷物を持つて新橋に行き、それから汽車に乘つて品川や川崎、大船などすぎて藤澤に著きました。其間には山も見ゐれば、川もあり、そうかと思へば田で農夫のはたらいてゐるも見ゐ、海で子供たちが、面白さうに海水浴をしているところなども見ゐて、大そう面白うございました、だん〱おなかがすいて參りましたから持つてきたお菓子を一つ〱たゞいて、又一つ〱とだん〱いたゞいて、さう〱中分くらゐなくなつてしまいました。

藤澤から電車で鵠沼に參り、皆てんでに大きなお荷物をさけてやうやう東家まで參りました。こゝは大そう見はらしがよくて、庭には池もあれば山もあり、又池には橋がいくつもかゝつていて、大そう廣うございます。

それからお友達と海岸に參りました。するとむかうの方には江の島が見ゐ又こちらにはぜんたい松林で大そう景色がよろしうございます。只をしいことには波の大へん荒いので、房州よりは人もあまりはいつて居りません。海の中に砂地がつき出しいて、私たちはそこを早速はだしになつて渡つて行きますと、波がよせてきて足を洗つてゆきます。その中をじやぶ〱は入つて參りますと、こんどは大きな波がよせて來て足の上の方までぬらしてしまひました。このようにしてしばらく面白く遊んで三時半頃歸りました。晩にはお湯には入りました。

（持地武子十一才）

家庭

今年の我が避暑生活

海老名みや子

七月廿三日と云ふに、長男を除いて、家族一同逗子櫻山に向つて出發致しました、私共夫婦と子供等五人女中一人。荷物は夜具包三個、行李二個書籍入提カバン一個。各小さな手荷物を提げて巣鴨ステーションに來り七時の列車に乘込みました。今年は乳吞兒がない爲め大あん樂な樣で、幸ひ氣車もあまり込合ませんで、同勢八人一箱にゆる〳〵とのり込みました。皆々愉快で子供等は一生懸命に外を眺めて、あれは何、これは何ぞ、研究に餘念なく、品川でのり替てからは一層氣も樂々しまして、私の樣に年中都の塵ばかり呼吸して居るものには一しほ氣も廣く汽車のゆるぎにつれて起こる暖かい風でもそれは〳〵こゝろよく感じました。右左の崖には百合花やなでしこが豐かに日光をあびて咲て居ます。稻葉もよほどのびて見渡すかぎり靑々と其氣持のよさ、私は全く天然の美に醉はされまして、夢ごゝちに鎌倉を過ぎ、逗子の聲に驚かされはじめて我に返り汽車を出ますと向ふ口に、にこやかな老婦人が見ゐます。これは山川未亡人で德富家の長女でありまして、年老玉ひし父母君を介抱の爲め櫻山に見ゐて居られるのでありますが、けふは態々私共をステーションに迎へられましたのです。

勢を揃へて櫻山に向ひ田越橋を渡りますと、はるか向ふの丘の中服に草屋根がチョンボリと見ゐます。はやく〳〵行て見度ひがくるりと廻らねば行かれません。やつと下の農家につきました。こゝは私共の借受ました家を預つて居る人の内で老夫婦に若夫婦に子供四人誠に皆親切でよい人々であります。愛想のよいおかみさんの挨拶をきゝ流して、田圃道を通り坂の登り口の井戸の處に達しました。此井戸こそは我等の爲に、汲めどもつきぬ命の水であります。下より上まで切石を以て丸く築き上げて頑丈に且奇麗に出來て居て見るから心地よくございます。其立派な井戸の向ふに怪しげな棒杙が立つてゝそれにきやしやな、はね釣瓶がぶらさがつて居ますなんと面白い配合ではありませんか。それからつゞら織の坂を登るのです、此坂とて自然に出來た杣路ではありません。態々此家の爲に崖を切開いてこしらへた路で、天然の松の木や欅や其他の雜木の間〳〵につゝじを植込し工合、萩なでしこが今をさかりと咲亂れた樣は、自然か人工か、何共いひ難い風情であります。家屋も小さなわらぶきて、さも〳〵田舍屋の樣ですが、廻り椽の工合から臺所湯殿、一通りキチンと整つた處、都の住ひらしく出來て居ます。が、マア何よりも廣々と打開いたる景色と塵なき涼風が此家の價であります。鏡の樣な海とボーツトぼかされた空が一所になつた處に、頭に綿をいたゞいたやうな富士の立姿、とても私の筆には

かけませぬ。家のすぐ下は田圃で、稻葉は徹風に波打て居ます。其サキに四五軒の農家があつて、其まわりに茄子や黄瓜や唐もろこし、人參大根さつまいも、胡麻唐茄子南京豆、さては紫蘇しやうがの類に至るまであらゆる野菜が出來て居ます。道を歩けば蟹や蛙がこそ〳〵がさ〳〵、田圃の中には鰌がじやぼ〳〵踊つて居ます。蟬や日暮しが庭の大木で聲を限りに鳴いて居る、とんぼや蝶々は廣い世界を我もの顏に飛廻つ居ます。この中に人間のみは別ものだとすましこんで居られましうか。いつしか我々も同化して自然の子となつてしまいました。とんぼの樣に羽をのして思ふまゝに大氣を吸ひ、魚の樣に水に泳いて波と戲れましやう。が、私共人間の悲しさ露のみ吸つても居られませんやつはりお鍋もお釜もお茶椀もおはしも一と通りのものはなんでもいります二千年の慣習とは申せ厄介なことです。サアこれから一働この厄介なものを揃へやうといふ處へ下からお麥湯が出來ましたと質扑な若いおかみさんか大土びんに入て持て來て吳れました。其味が亦自然に合して味しい事〳〵譬へ樣はありません最初から夏の生活に出來得るかきり簡易生活をする積りでありますから一時間餘りで略備はりました。これから午飯の仕度をと思つて居ると德富さんからお壽司やお積ものをくださいましたので皆々大喜びで舌をならしました。サアこれで家も片付お腹も整ひました子供たちは何もかも面白くて夢中です。アレ蟬だヤレとんぼだ蟹だと坂を登つたり下つたり騷て居ます。これから海行だと申ますと皆々大喜びて、帽子を被つて飛び出しました。

御承知の通逗子の濱は遠淺で穩やかで子供等には至極安全ですが、それでも潮の滿干につれ男波女波の寄せては返す面白さ、幼兒等かうつかり立つて居ると波に浚はれ水を被りてキヤッ〳〵と騷で居ます。實に海も活動人も活動で爽快とはかゝる事を申ましやうか。やつと切あげて内に歸るともふお腹が空になつて居ます。少し立つと此度は又子供等がお父樣山へ登りましやうと引はり出します。暫らく立て美事な百合花やフキをとつて參りました。夕飯後は網打に出かけまして、大人も子供もお供で參りました。すぐ初めると四寸位の黑鯛が九つとれました。皆大喜ひで歸つてすぐお料理をしてこれは明朝の御馳走。丁度一人に一疋つゝもおかしうございます。これが避暑の初日で、其翌朝は五時頃起きまして海に行て海草を取つたり、貝を拾つたり、一時間半も遊んで參りました朝飯を終るとすくお集りを致します。其後は家事を手傳ふものは手傳ひ、遊ぶものは遊ぶ。主人は午後水泳に子供等を連れて參りましたり網打に出懸けたり致す外は、日中でも子供等が騷で居てもおかまひなしで、一心不亂讀書や書きものを致して居ます。いや、も一つ主人の大事の仕事を忘れて居ました。それは朝夕の水汲の手傳ですかの坂下の井戸から汲んで來るのですから中々の運動ですか樣に主人が先きに立つて致しますので召使は申までもなく子供等も誰一人水の不平を申ませんて各々出來る丈け手つだひます。またも一つ大切なることを忘れて居りましたそれは何傳德富老翁の爲聖書の講義を致した事です。老翁の喜ひは大變なもので其理解力のさかんなるは驚くばかりですさながら青年の頭腦の樣ですこれが八十八の老翁

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とは驚くの外ありません。全く兼ての修養の結果と思はれます。何しろ八人の家族ですから煮たり燒たり洗つたり、ずい分忙がしうございます。しかしそれが亦樂しみで時にはおはぎをこしらへたり、又山から、ふきをとつて來てはつひお壽司がこしらへたくなつたり、大きい子供等は樂しんで働きます。こんな工合に一ケ月餘を送りまして、マア當年は割合によい避暑を致しました。

　それで私は皆さまにお勸め致ます。私共出來る事ならば、一家を擧げて一ケ月間、避暑致度ものであります。其利益の重なるものが先つ三つあると考へます。

第一は身體の爲

　これは皆誰れても承知の事で避暑と申せば殆どこの外の意味はない様に考て居ます。勿論これは大切な避暑の主眼でありまして、如何にして身を養ふかといふ事は深く考へねはならないと存じます。休養と申せば美食に飽きて、旅館の二階に午睡でもして居る事の様に考へますが、それは飛んだ間違でございまして、毎度先生方から伺ひます通り、全く平常の生活狀態を變するといふ事が大切だと思ひます。それで勞動爲す人なれは全く仕事を止めて休

む事が乃ち休養でありますが、平常腦の働をして居る人は、それを反對に是非多少の勞働を致さねばなりません。其仕事は可成其人に興味のある事がよい。さうすると其爲に不絕こゝろの中に横つて居る、種々の問題も何もすつかり忘れて仕舞つて全く腦を休める事が出來まい。又發育盛んな少年少女には、安逸といふ事は大禁物です。出來得る限り勞働させねはいけないと思ひます。水泳は申までもなく、女子なれは家事の手傳洗濯の如きは、其の仕事として わけて快い勞働であります。わつか一ケ月でもこういふ工合に送りますと驚く斗り身體も健康になる様でございます。

第二避暑は精神修養

の好時期であると思ひます。常にことわざしげき都住ひのあれやこれやに刺激せられて、ともすればあらぬ方にそれ行かんと致しまして、我修養の至らぬを感ずる事でありますが、一度都の塵をさりまして、美しい自然に接しますと、身も心もすが〳〵しく

さながら蘇生つた樣な氣持になります洋々たる海原を眺めては「神の惠はいと深し底ひ汀をうつ波の」と歌ひ、涯をあをげば野の百合花空の鳥の御敎訓を思ひ起し、靑くなる稻葉を見れば「みのれる田の面は見渡すがぎり」と口ずさまれます。見るものきくもの一つとして父の聖旨を顯はさぬはありません。宛然生る聖書に接してる樣です。

第三避暑は子供敎育の好時機であります。この時こそ子供の和らかい心に美くしい宗敎心や貴い道德心をやしなつてやらなければはならないと考へます。無暗と智識をつぎ込むのと違つて、宗敎道德の思想を與へられるのは、子供ながらこゝろよく感じますので、むしろ健康を扶ける事になるだろうと思ひます。又常はいろ〳〵の事にとり紛れて、大ていな事は見のがして置きますがかゝる時には巨細となく子供の動作を見て注意を與へる事が出來ます。出來得る限りよき習慣をつけ、年若い時より事々物々己れを研くの砥として、それを實行する樣な事から立居振舞ひの瑣末の事まで氣を付けてやりましたら、其子供の生涯の寳でございましやう。

か樣に避暑の大切なる事を感しますので、いろ〳〵其方法に付ても考へて居りますが、それは來年の避暑前に皆樣の御說も伺ひ又私の考へも申上る事と致しましやう。が、こゝに一つ私の實驗を皆樣の御參考に供へて置度事があります。それは避暑の事であります。勿論これはありあまる方〳〵に向つて申上るのではありません。私共の樣に餘裕なき生活ののが避暑費をどうして作るといふ事です。何ぞ餘分の働きをして作へる事が出來れは一等よいと思ひますが、先づそれは出來ないものと見まして、月々少しつゝ其爲に供へねばなりません。どの位入用であるか其豫算を立てなければなりません。私は避暑の爲借受る家賃と往復の旅費とを用意すれは充分だと思ひます。食費は平常の經費を以て充て、娛樂費は常の交際費を以て致す事にして居ります。この娛樂費と申ますのはたとへは逗子ならは江の島見物とか申す樣な費です。これは是非必要であります。其他衣服費が殆どなしですみますから、兎も角も家賃と旅費とを用意して置けばよいと思ひます。どふか皆樣今から來年の御用意を遊しませ。

妻としてのモ子カ

聖山生

予は曾て京都の從兄の家で、一高女の舍監が伯母に向ひ「お勤致すのが一人も御座いません」と語るのを聞いた事がある。之れは無論緣談であつた、良妻賢母の養成者たる彼等なれば、よろしく紀念撮影の大判でも抱わて來て「先づ是等で御座います、どちらともお好み次第—」と出るべき筈であるのに、お勸め申すのが一人もないとは、果然、現代女子敎育の通弊を最も適切に暴露した言ではあるまいか。思ふにこれは彼等各々にも其罪はあるであらう。が然し、敎育者其人にもないとは云へぬ。之を要するに枯れ果てた倫理のお講義や、形式的な道德で人を作らんとするの怨から來る當然の結果で、宗敎々育てふ活ける靈能の薰陶を無視した必然の道程である。予は信ずる、若し此首腦を閑却した敎育法であるなら

ば、濁流渾々たる社會に出て來て、品性を完ふし人格を傷けぬ女性の養成は恐らくは不可能であらう。況して己が一身のみならず、其周圍を淸め、餘香を他にも及ぼさんは望外の事である。

若し世の婦人たちが、眞に信仰の人であり祈禱の人であつて、其夫のため其子女のために切に神に祈り、而して彼等の前に四六時中神の愛と榮とを現はし、眞に愛の化身となりて其品性と人格とが心から其夫を悅服せしめ、「我が妻は稀れに見る所の良婦人なり、故に我は幸なり」と思はしめ、子女をして「我等は斯る母を有するは寔に神の惠みなり」と感謝せしむるならば、誰れが其の妻を惜いて善からぬ道に迷ひ、何處に其所を捨てゝ誘惑に陷る者があらうぞ。家庭は初めて神のまし、社會は之より淸まるのである。

斯く思ふ時に予は宗敎によりて薰陶され、陶冶された女性を憶ふ事切なるものがある。之れ予が妻としてのモネカを溫ぬる所以である。

モネカは紀元三百二十八年頃、北部亞弗利加の大砂漠に潛へるタガステと云ふ處に生れた。彼女の父母に就ては寡聞なる予は多く記し得ぬが、唯熱心なるクリスチャンであつて、二人の中に生れたる、モネカは啻に蝶よ花よと寵愛せられた許りでなく、人の子として受くべき最美の薰陶を其父母に受けた事は事實である。彼女は幼き時より常に兩親につれられて會堂に行き、敎へを聞き唯一の神を信じ、稍長ずるに及んでは愈々敬虔の念に滿てる淑德の乙女となつた。彼女は病める者貧しきもの、老いたる者のためには骨身を惜しまず、其心身を慰め恤はる事を無上の喜びとした。而して克己の精神は內に燃ね、禮讓の行ひは外に溌れ、常に朋輩の間に推服尊重されて居つた。予は斯る彼女の處女時代を見、更に輝ける信仰の生涯を見る時に、誌さずして遺憾なく其父母の凡てを知る事が出來ようと思ふ。

處女が溫順にあればある丈け社會の要求は無遠慮である。此の溫良の淑女モネカも今や愛する兩親の膝下を辭して、信仰習慣を異にする家に嫁ぐ事となつた。彼女の夫は名をパトリシャスと稱し、辯護を職とし相應の財產と學識とを有する者であつたが、性來短慮にして稍もすれば怒髮天をつき、分別もなく妻を罵り、神を信せず、從て酒を嗜む事夥しく、時には劣情の擒となる事すらあつた位で、其品性の上より見れば實に凡夫であつたらしい。

之まで生みの兩親の間柄の和氣靄々たる狀を目擊し、クリスチャン、ホームの洋々たる春光を理想して居つた室咲きの花にも等しきモネカには、呼々、夕の窓に行く雲を眺めて、僻りやる瀨なき淚に袖絞りし事、そも幾度であつたらう。此事既に同情にたへぬ。然るにモネカの心痛は之に止らない、夫れは姑の邪險である。嫁と姑とは洋の東西を問はぬものにや、モネカも其姑より、些末の事にまで角を立てゝ理を非に云ひ立てられ、虐待を受けた事は實に言語の名狀すべからざるものがあつた。

夫れ妻の喜悲は係りて夫にある、活かすも殺すも夫の人物一つにあるとは、これ一般の觀念であるが、賢婦モネカも此觀念の圈內に居るべき人であらうか。否な〳〵、神を信じ神の約束を信ずる彼女は、反對に夫の浮沈は係りて妻にあり、榮ゆるも滅ぶるも妻の信仰にありと堅く

信じて動かなかつた。「求めよ左らば與へらるべし」との聖句は實にモネカの一生を貫徹せる活ける力であつた。斯く信じた彼女が、先づこの頑陋なる姑のために如何に心を碎き、愛敬を以て奉じ、溫順を以て仕へしか、而して半霄人の定まるを待つて、如何に紅涙を絞りて天父に熱禱を捧げしかは、堅氷とけて春草の萠え出づる樣に、數年を出でずして輯睦日に〳〵厚きを加ふるに至つた事によりて證明される。

如何なる人も救はるべしと信せる彼女は、念々愈々切に良人の改悔を祈つた。夫の德操の荒み行くにつけ彼女の祈禱はます〳〵痛切であつた。聖書に「訴られて訴らず、苦しめられて勵しき言葉を出さず、患難を受くれども窮せず、詮術つくれども望みを失はず」とあるが、彼女は實に其の如くで、如何に虐待をうけても罵られても之を忍びて逆らはず、賢しげなる諫言をなして却つて激せしむる事なく、其感情の平靜にかへるを待ちて、意を盡し心を盡し精神を傾けて徐ろに慰籍し反省する處あらしめ、只管神に祈りて「淸き義しき男たらしめ給へ」と朝夕熱禱した。

信仰の人は俗人の前には明皎々たる鏡である。俗人は之に對すれば自己の如何にも穢いものなる事を覺らずには居られぬ。斯る貞淸純潔の化身と起居を共にせる良人、爭でか木石の如く何の感じもなくて居る事が出來ようぞ。パトリシャスは今や初めて己が品性の穢がれ、人格の賤劣なる狀態をいとも深刻に感じて來た。而して玆に初めて彼の靈性は搖り動かされ、信仰は潮のように起つて來て、改悔の淚せきあへず、或夜遂にモネカの手をしかと握り、男泣きに泣いて悔い改めの祈りを捧げた。嗚呼、春夏秋冬、雨はふる日もあり、降らぬ日もある、左れどモネカの祈らぬ日とてはなき、十有八年の間の切なる祈禱は遂に天父の嘉納し給ふ所となり彼はいよ〳〵神を信ずるの告白をなし、聖前に跪いて洗禮を領するに至つた。嘻々此時モネカは如何なる辞を以て神に感謝を捧げたであろうか。「得べしと信せば必ず得べし」。モネカは實に其活ける證者である（おはり）

白露もこぼさぬ萩のうねり哉　　芭蕉

少女日記　二

七月廿三日　金　晴　今朝は東京のつもりで起きて見ましたら、波の音がどう〳〵ときこゑて、あたりが何となく靜でしたので、おやと思つてたちあがつて見ると、こゝは鵠沼でしたので大變驚きました。朝の御飯の時にはみんな一つのテーブルにならんで、河本さんの叔母様がお祈りをなさいました。私はこぼさないようにと、よく〳〵きをつけて御行儀よくいたゞきました。今朝は教會がありますから仕度をして千代叔母様と參りました。その場所はずつと東家から下りて松林の中の藁葺の一軒家で、そこからは海が見ゑて大そう見はらかしのよい所でございます。こゝへ參りましたらまだ大へん早くございましたから千代叔母様とそばの川でめだかとりを致しました。そしてその中をじやぶ〳〵はいつていつてせつかくとりかけるとみんなどこかへいつて影も形も見ゑなくなつてしまひます。幾度も〳〵取りかけましたが、みんなどこかへいつてしまひました。やがて時間も近きましたから足を洗つて會堂に參りました。そして讃美歌を歌つたり、聖書の事をうかゞつたりして十一時頃終りました。今日はおとなの方と御一しよでしたのでわかりませんでした。（武子）

いよ〳〵四時、千代叔母様が東京へお歸りになる時刻が參りました。色々お手傳してそこまで見送りに參りました。だん〳〵遠くまで行くと何となく悲しくなりました。さうしてゐる内にはや妹は悲しさうな顔をして泣き出しましたので、私は始めはがまんしてゐましたが、遂に堪へきれず一しよに泣きました。いよ〳〵おわかれする時は胸が一ぱいになつてしまひ、仲々左様ならと申されませんでした。何時までもそこを離れる事が出來なくて、形の見ゑずなるまで見送りましたが、たまらなくなつて追ひかけました。すると叔母様も立もどつて「明日はきつとまた參りますから」とおつしやいましたから、大そう安心致してお別れしました。（貞子十五才）

文苑

ゆきあたりばつたり集

内ケ崎作三郎

四、當るべからざる老人の大氣焔

これも昨年九月末のこと。モースコーから。聖ペテルスブルグ行の萬國寢臺會社の夜行汽車に乘り込む。僕等の室には相對して四個の寢臺がある。同行の中川法學士は不加減にて上の寢臺にもぐり込んだ。僕はその下の寢臺に横はるのであるが、寢るには早い。向側の寢臺に一人の老人がゐる。この上のには若い獨逸人がはいるのだが、細い廊下に出てゝ新聞を讀んでゐる。僕は老人と挨拶をした。老人は獨逸人で永らく聖ペテルスブルグに藥劑師をしてゐる。若い時にウヰンナ大學で勉强したとて、英語を話す。比較宗教には興味があるとて日本の宗教のことを聞く。あなたの宗教は何かときくと、新教だと答へて、神樣は金びかりのする露西亞正教の會堂にのみゐ給ふのではないと氣焔を吐く。僕も日本の新教徒だといふので、老人段々胸襟を開いた。聖ペテルスブルグにはコレラが流行してゐる。生水と菓物は食つてはならぬと藥劑師たけに衛生の注意をしてくれて、十一時頃になると上衣を脱いたまゝで毛布も引きかけずにグウ〳〵寢込んで了つた。翌朝一緒に茶を飲みながら色々な話しをする。若い獨逸人もこれに加はる。この男は英語は話せぬ。僕も宜加減な獨逸語をふりまはす。込み入つてくると老人が通辨する。若い男が男女の關係が東西兩洋の間に大に相違があらうと問題を出したから、僕は説明をしてやつた。すると老人は君は結婚したのかと聞く。然りと答うれば何故妻君を連れて來ぬといふ。金がないから單獨で勉强しに來たのだといへば、それは間違つてゐる。一人丈で來る樣な不人情なら、來ぬ方がよかつたといふ。やゝ考へて、老人はまた口を開くこゝに妙案がある、君が學問を仕上げて日本に歸つてから、今度は妻君を單獨に留學させたならよいだらうといふ。僕は子供の世話をするから來られまいというと、老人はさるもの、君の留守中子供の世話は細君がやるだらう、妻君の留守中は君がその任に當るべきだとつけこむ。これには流石の僕も答辨が出來ぬ日本の婦人は西洋の婦人の樣に我儘でない、良人のためには犧牲になることを辭せないのだと負惜しみをいうと、老人一

向聞き入れず、それは不公平だと言ひ張る。そのうちに汽車は聖ペテルスブルグに着いた。

五、あれそこに淑女が見ゑましたよ

昨年十月のはじめのこと、僕一人でロンドンは大英博物館の中に這入り込んで、見物をしてゐた。世界一といはるゝ博物館丈あつて、東西古今の文化の遺跡が一堂のうちに集つてゐる。バビロン、エヂプト、ギリシヤ、ローマの古代文明の面影はいうまでもなく、印度、支那、日本のそれ等までそれ相應に代表されてある。僕は興味と好奇心とに駆られて、方々をのぞいて歩いた。一二時間駆け廻つたのでやゝつかれが來たからとある椅子に腰かけて友人にやるはがきをかいてゐたすると一群の小學校の生徒が教員に連れられて來た。僕が奇體な字を書いてゐるので二十名ばかりの少年が僕の周囲に立ち並んだ。氣早い少年は手帳を出して僕の名を日本字で書いてくれと頼む。僕も面白半分に書いてやると大喜びだ。さて僕もこの一行に混ぢりて日本の部に後戻りをする。そこには日本古代の大刀、長刀、短刀、甲冑、鎧、陣羽織などが陳列してある。教員は少年等のために説明してくれというから、簡單に説明してやつた。少年の一人は婦人用の小形の短刀を見つけてこれは何だときく。そこで僕は武家時代の日本婦人の嗜みを説明して、一家の急に際しては長刀を揮うて戰ふことを恐れなかつたと共に一身の貞操を守るにこの短刀を以てしたる覺悟をほめ上げ、一死以て貞操を守りたる節義を説くと、教員先生は熱心になつてきく。そのうち二人の話が西洋の社會に於ける婦人の位置に及んで、西洋ではやゝ婦人の位置が一方の極端にまでゆき掛つてゐないかといふと、教員はやゝその氣味があると答へる。この時僕等の手近に一人の婦人が寄つて來た。すると、教員先生僕にさゝやいで曰く、あれそこに淑女が見ゑましたといふて婦人論を切り上げて、日本の陶器の陳列場にいつた。僕は手短かに説明して、一行と別れた。無邪氣な子供達のグードバイ〳〵といふ聲が大きな室の内に響き渡つた。

六、滊車中で少年の英國々歌合唱

十月八日のことであつた。朝東海岸のローウエストをたちノールウイツチの古城を見物し、午頃ケンブリツヂに着いた。先づ此地第一の三位一體學院に行きて有名なる食堂と禮拜堂を一見し　ベーコン、ニユートン、マコーレイ、フレデリツク、テニソン、モーリス等の画像やら塑像などを見物して、一種の感興にうたれた。それから細いカム河を渡り、裏手と稱せらるゝ美はしい草原を歩いた。こゝはミルトン、ウオツヅウ

オース、テニスンなどいふ大詩人が好んで散歩した所だと思へば、け高い想ひが自ら胸中湧かざるをえなかつた。三時間も見物したので、疲れが來て、夕方の汽車にてオックスフォードに行こうと停車場に引き返した。丁度汽車が出かける所であつた。どの室も皆滿員らしい。一萬里の旅路を終へて、やつとこ、目的地に着くのだから、婦人達のゐる車室へなど割り込んで、窮屈な思ひをするよりは、喫煙室でもよいから、樂をしたいと探がしあるくと、小學校生徒の一群が占領したる一室がある。子供相手に一つ遊んでやらうと思うて、僕をいれないかといふと、異口同音にエイス、サア、といふ。這入つてみると、十三四を頭にして十位の少年の腕白盛りが七八人もゐる。僕は何邦の人かあてゝみよというわからぬと答ふ。

日本人だといふて、天子様の名は何というと聞く。一人の子が手帳を出して天子様の名を日英兩語で書いて呉れといふ。かいてやると我も〳〵といつれも手帳をを出して大騒ぎだ。

僕は「よろしい、書いてやるかはり、君等は御禮として英國の國歌を合唱せなければならんぞ」と持ち出すと、又異口同音にエイス、サアと答ふる。此度は僕の名や、自分達の名や、御母さんの名を日本字でかいてくれといふ。仕方がないから書いてやつた。いよ〳〵此度は君等の番だと催促すると、やゝはにがんでゐる所もあつたが、年長者が歌ひ出すと、七八人の少年が朱い唇を開いて室も裂けよとばかりに歌ひ出した。彼等の林檎の様な頬と、碧玉の様な眼と、張りのある強い聲と相合して何ともいはれぬ快感を僕に與へた。合唱は首尾能く

濟んだ。僕は拍手してこれを謝した。さて少年等は何か日本語を敎へてくれといふ。そこで「お早う」と「左様なら」とを敎へて意味を説明してやつた。いづれも二三度で覺えた。そのうち次の停車場について、いづれも車室を出たが、皆僕に握手をして「サヨーナラ」〳〵を繰り返へす。プラットフォームに立ちて「サヨーナラ」をやめない、前後の車室では何事ぞやと顔を出して眺めてゐる。汽車が動くと二三人の元氣者はカバンをうち振り〳〵追ひかけて踏切の所に來て、立ち止まりながら、最後の一聲、「サヤジーナラ」。次の停車場に着くと車掌が僕の室に這入つて來て腰掛の下から子供の靴一足を探がし出していつた。子供達はあまり騷いで、遺れて行つたので、追付け電報で通知がして來たのであつた。

その夜

藤なみ子

(一)

鎌倉は悲しきところです。野も山も、海も河も物の哀を催さないものはない。若き乙女の戀に陷るのが無理でせうか。

去年の八月、私は親友の愛子さんと、八幡前にある大町園の隱宅に居ました——此家は愛子さんの親戚なので——。打續く天氣に草も木も疲れた様で、心もまた何物にか憧憬るるのでせう、私は不安にのみ襲はれて居ました。

其日は特に蒸暑い日でした、是非なく誘はれて音樂會へ行きましたが、心は只亂るゝばかりです、若き男、美しき女、憧憬るゝ眼、燃ゆる笑、戀の曲、私は遂に堪へがたくて、小督の曲がすむと共に、遁れる様に會場を出ました。私は寂しき小町の裏通りを通つて、鶴ケ岡八幡の右手を滑川に沿ふて急ぎました。私はたゞ涙の限り泣きたいので、淋しき所を求めて居たのです。

長き松並木を過ぎて大塔の宮の石段を上りますと、境内はひツそりとして人影もありません。日は後の山に隱れて、しめやかなる古き社を風は哀調をさゝやいて行きます。私はとある苔むした祠に取ついて泣きました。

突然後から私の名を呼ぶ人があります。振り返つて見ると、思ひがけなくも俊さんでした。私は顔見られるのが、恥しくて、わざと傍を向きますと、俊さんは親し氣に側へ寄つて。

「千代さん、どうしたの、此間から僕は逢ひたくて居たのだよ。」

「おや、そふ、」と何氣なく云ひましたが、聲は怪しく震へて居ました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「講習會に何故出なかつたの、貴女も會員だつて云ふじやないか、」

「でも、六ケ敷いことなぞ私には解らないから、」

「皮肉を云ふねヱ、原が云つてたよ、貴君の友人の春井さんは禪學が好で、圓覺寺の奥に抹香臭くなつて居るつて、餘り熱心にやるとお舍利になるぜ。」

「ヰエ、私なんか………」と私は門の方へ歸らふと致しますと。

「千代ちやん、談したいことがあるのだよ」と、つと擦寄つて、無理に拜殿の後へ伴れて行きました。

俊さんと私とは七八ッの子供の時から知合つて居ます。俊さんは人好きのする質朴な優しい人で、いつも私に親切でした。年は私より三歳上です、學校の往復り、お使ひの途中などで、ふと出遇ひますのが何より嬉しく、町端れの椎の木の下に、俊さんは度々私を待つて居て與れました、十七八の無邪氣な男らしい俊さんは誠に私の生命です。併し今の俊三さんはもとの俊さんではありません、俊さんの心はその風采と共にすッかり變化して仕舞ひました。私は絶ねず俊さんを戀しくもまた、憎らしく思つて居るのです。

私は俊さんの手を拂つて、躰をかはそふといたしますと、俊さんは強く私の手を握つて、

「千代ちやん、僕等は子供の時から、かうして仲よく遊むだじやないか、僕はいつでも考へ出して泣くよ。」

「でも、私のことなぞもう忘れて被入るは、」

「酷い事云ふね」と俊さんは私の頸に手を懸けて、

「世界中の人が皆僕を誤解しても、僕の高潔な愛情を解して居るものは恐らく君だらふと思つて居たに、奈何して其麽に冷淡だらふ、」

口惜しそふに私の體を抱きしめました。高き鼓動は、魔する樣に私の體に傳はつて來ます。

（二）

家に歸つたのは七時過ぎて御座いましたらふ。日は既に暮れはてゝ屛風が岩の頂には、懐しそふな夕月が微笑で居ます、私は人に顏見らるゝのも恥しい樣で、忍びやかに家に近附いて行きました。愛子さんは椽側に腰を掛けて、宅の女房と談して居ます、湯上りの顏はホンノリ上氣して月光をあびた片面が何となく神々しく見へました、私は眩しい樣で

「只今」と口の内で云ひますと、

愛子さんは張のある横目に私を見て、

「何處をうろついて被入つたの、今頃まで、音樂會も途中で歸つてお仕舞ひなされたのに」

私はたゞ笑つて居ると、

「乾度あれだらふと思つて居たのよ、中田さんみたよふにね、由比ヶ濱邊で戀人でも拾つて、交番へでも屆けに行つて被入るだらふと………」

「あら酷いは、」と怨む樣に云ひましたが、顏はサッと赤くなりました。

「へゝ、貴女樣なぞお固く被入るので御座いますもの、オホ……。」と女房は彼方へ參りました。私は殊更嫌味な顏をして。

「愛子さん、貴女は本統に嫌な方ね、誰の前でも酷いことを仰有るのだもの、私はどうでもよいけれど、富子さんのことなぞ矢鱈人の前で云ふものじやないは。」

私は照隱に不平を云つて、汗ばんだ衣服を着換へると、逃げる樣に湯殿へ參りました。

再び部屋に歸りました時にも、愛子さんは猶は柱に倚り懸つて月を見て居ます、私の心を鎭め樣と机に向つて書物を開きましたが、字が紙上を浮動して目に入りません、私の机に突伏して心の影を追ひますと、只涙がこぼれて參ります、

「暮井さん、どうなさつて」と、いつになく愛子さんは深みりと言ひました。

「何ァに、どうもしなくつてよ」と顏を上げましたが心の内を見られる樣で「ねむくてねね」と直ぐ下を向きました。

「私いやなこと聞いたのよ、」

「何を、」と狼狽て云ひますと、

「中田さんの事ね、私まさかと思つて居たのですけれど、酷い事實があるのですつてね、中田さんも其麽に墮落なさつたかと思ふと、私本統に口惜しいわ、」

私の肩の重荷を下した樣な氣がしました、

「どなたから御聞きなさつて、」

「今小母さんから聞いたのですよ、川井さんはね、大町園に泊つて被入つたのですもの、」

「乾度何かの間違ひよ、富さんは嚴しい宗教學校の生徒でしかも立派な牧師のお娘さんですもの、それに川井つて方だつて信者だつて云ふでせう」

「ねエ、W大學の生徒で、日曜學校の校長よ、」

「そらね、其麽方がなんで馬鹿な眞似をなさるものですか云つては惡いけれど此邊の人の考が卑劣よ、直に其麽こと云ふのですもの、其を貴女までお信じなさるなんて餘りだわ、」

「私だつて信したくはないけれど、嫌な事を見たのですもの、」

「何を?」と私は急に顏を上げました、愛子さんは顏を赤めて、

「人のことでも私きまりが惡るくつて……」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「事實なら何でもないでせう、」
「ねエ、ですけれどもね」と愛子さんは躊躇いながら、
「先達の晩、私此宅の彌助さんと一緒に海へ行つたでせう彼兒は海へ這入つて泳ひで居たのですけれど、私は脫衣場の内で待つて居たのですよするとの隣の小屋へ人が來たの、」それからね、」と又口籠つて仕舞ひました
「あら、嫌だ、來たつてちつとも不思議はないは、」
「冷かさないで靜に聞いて頂戴よ、來た人は二人連よ、男の聲でね――男と女と戀するのは神の御心ですつて、」
「ホホ……」と私は思はず笑ひました。
「するとね――あの事は――と甘へる樣に女が云ふのですよ、……私もう云はれないは、」愛子さんは眩氣に顔をそむけました、私も何となくきまりが悪い樣です、

「それが確に富さんなのですか、」
「いゝえ晩ではあり、少し隔つた葭簾の内ですから、私誰だか解らなかつたのですよ、けれどもね、確に聞き覺のある聲だと思ひましたわ、今考へて見るとどうも……」
「嘘ですよ、其麽ことがあるものですか」と私は遮る樣に云つて「富さんは私の友達ですわ、そんな中傷をなさつちや嫌よ、」
「嘘！中傷！」と詰る樣に言つて、「まア失敬ねエ、私其麽卑劣な人間じやなくてよ若し嘘なら貴女の戀人に聞いて御覽なさいよ、淺野さんと川井さんは親友よ、」愛子さんは怒つた樣に、ふつと立つて庭へ下りて行きました。
私はまた机に向ひましたが、心は又劇しく亂れて來ました戀人――淺野さん――と云ふ言葉が胸を貫く樣です。

四五日前の夕方でした、愛子さんはいつもの樣に求道者の夏期講習から歸つて來ましたが、突然私の肩をたゝひて、

「お樂しみ許婚者か來て被入つてよ、筒井筒振分髮といふお安くない。」

「ねエ、何アに」と驚きますと、愛子さんは「オホ……」と噴き出して、

「知つてるでせう、淺野俊三ッて人を、あのW大學に被入る、」

「ねエ、けれども其人が奈何したの。」

「今日貴女の事を談して被入つたわ、子供の時から御友達だつて、でね、戀人としてをきませうよ、其方が趣味があつて善いから、年經て鎌倉で巡りあふなんて、非常に詩的で面白いのね、」

快活な愛子さんには這麽戲談は稀らしくありません、其後俊さんの事をば、戀人許婚者など　戲弄つて居ました、併し此夜ばかりは意味あり氣に苦しく胸に響きました。

（三）

夜一夜、私は熱に犯された樣で眠る事が出來ませんでした燃ゆる樣な眼の光と、魅する樣な嬉しい言葉に、私の心は吸はるゝ樣で、胸は絕ねず迫つて來ます、全身の血汐は嬉しさ

と恥しさに渦く樣で、身體は絕ねず顫へて居ます、私は幾度か俊さんの言葉を繰り返へしました、

（世界中の人が誤解しても……高潔なる愛情を……）。そふして淚は漲る樣に頰に流れ落ちるのです。

翌朝、日が高く昇りましても、私は起き出す勇氣がありません、愛子さんは昨夜の事なぞ忘れた樣に、不相變面白そふに彌助さんを相手に遊むで居ます。私は人に見られるが恥しい樣で夜着引被ぶつて寐て居ました。

午過ぎて、無理に愛子さんに起されましたが、唯茫然として昨日の影を追ふて居ました。愛子さんは眞實病氣と思つたのでせう、夕飯がすむと——、早くお寢みなさい、氣を附けてね——と親切に慰めて教會へ行きました。

一人椽側へ出て空を眺めておりますと、胸は刺さるゝ樣に苦しう御座います。夕映の陰に懷しい姿が秘むで、私を招いて居る樣です。私は何物にか待たるゝ樣で、ボンヤリ家を出て行きましたなるべく人目を避ける樣に松並木の內を停車場の方へ參りますと、並木の盡るあたりで此方をさして來る人を見ました、白絣の着物に羽二重の紋の帶、框なしの鏡眼をかけた、懷しい姿が眼に入りますと、私の體は燃ゆる樣に熱くなりました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「何處へ行くの、」

「あの、私今……、」

「敎會かへ、まだ早いよ、散步をしやふ、散步を、實に好い景色の所があるせ、」

俊さんは直ぐ横町を右に折れて、寂しい裏途へ這入つて行きます。私も其後へ從いて行きました。二人は或る古寺の前を通つて田畝道へ出ました。俊さんは急に立ち止まつて、

・「どうしたの、大變すまして居るじやないか、」

「いゝわ、」と勉めて平氣を裝ひましたが、聲は恥しきまで顫へて居ます、

「病氣だつてね、先刻源さんから敎會で聞いたよ」

「もう、好いわ、」

「そうか、僕は非常に心配したよ、」

二人はまた無言で步き出しました。

材木座を通つて由比ケ濱へ行きますまで、二人は殆ご談しませんでした。俊さんは屢々問ひ懸けましたが、私は恥しさに胸が跳つて答も碌に出來ません。野も海も、人も波も眼に入らぬ樣で、たゞ其後に從いて行きました。

滑川の海に注ぐ所に、砂の上に架けた假橋があります。昨夜の大風に浪が碎いたので御座いませうか、半落ちて渡ることが出來ません、私は立停つて水を眺めて居りますと、俊さんはつと私の耳に口を寄せて。

「千代ちやん、昨日のことを忘れやしまいね、」

私は劇しい電氣にうたれた樣で、心は麻の如く亂れて來ました。私は强て心を鎭める樣に、

「好い景色ねエ、」とわざと靜に海を見ました。海は白く波立つて居ます。

「千代さん海は好かエ、」

「ねエ、浪の底に善いものがある樣で、」

「ウン、あるとも、行ふ一緒に、」俊さんは强く私の肩を抱きました。

一道の火が射した樣で、不圖心附くと、私は俊さんの手に抱かれて其胸に泣いて居ります。

「俊さん」と顏をあげると

「ねエ」と熱い頰は私の頰に觸れる樣です、

「貴君、川井ッて方御存知なの、」

「知つてるよ、僕の親友だもの、」

「其方は中田さんのあれだつてね……」

「知つてるかへ」と笑ひながら「中田のお轉婆女、餘り交際家ぶつて生意氣だから、川井が面白がつてからかつたんだよすると先生夢中になつて、川井の後を追ひ廻すんだ、馬鹿女好い慰みものになりやがつて、」

「其では川井さんは、心から富さんを、あれして被入るのじやないのですね、」

「そうだとも、其麼安ッぽい川井じやないさ、川井にや澤山女があるんだよ、藝術家が心を奪はれる樣でどうなるもんか、」

「まア、男ッて其麼もの」と呆れて俊さんお顔を見ますと、

「ウフ……ン」と俊さんは冷やかに笑ひました。

私は夢から覺めた樣で暫く俊さんのお顔を見て居ましたが俊さんの心は氷よりも冷く見へます、私は急に立ち上つて、

「歸りませう」と河を超ねて松原の方へ走りました。鎌倉女學校の前まで參りました時、俊さんは追ひすがつて、

「奈何したんだへ、」

「淺野さん、貴君は文子さんを御存知ねい、そうして森さんも、高井さんも」私はキッと俊さんの顏を見詰めした、俊さんの顏には不穩の色が見ねましたか、忽ち人を引く樣な眼を見張つて、

「知らないよ、女はたゞ千代子さんきり、」再び私を捕へ樣とする手を取り拂つて、

「お隱しなさつたつて、私よく知つて居ますわ、私も知らないと思はれて居る一人でせうね、」後をも見ずに踏切りを越ねて走りました。

其夜は勿論眠れませんでした。私は俊さんの心が恐ろしい樣な、憎らしい樣な、また戀しい樣で、女の身の果敢なさを悲しく泣きました。私は天も地も海も山も人も吾も皆自分の愚を冷笑する樣で恥しさに堪へられません。翌朝早く起きまして愛子さんの怒るのも顧ず、急いで東京へ歸りました。

其後俊さんから何の便りもありません。私も俊さんの事を思ひません、いゝね思ふまいと勉めて居ます。

九月の始、鎌倉から歸つた或友人が這麼談をいたしました、

「原さんには此頃特別の御親友が出來てよ、その方は淺野とか云ふ高襟な人で、毎晩一緒に海岸を散歩して被入るわ、」

私は妬ましい樣な寂しさにうたれると共に、愛子さんの不幸を心から氣の毒に思ひました。

嗚呼、かくて乙女の淸き血汐は冷刻なる人の手に弄ばれて、涸れつくして仕舞ふのでせう。

少女日記 三

七月廿四日 土、晴 今朝も千代叔母樣がいらつしやいませんので、何となく淋しくございました。七時頃から日曜學校がありますから皆さんと御一しよに參りよい海の景色をながめつゝ、神樣の敎をうかゞひました。お晝飯後ふと叔母樣がいらつしやるといふ事を思つて、姉樣と二人ですつと鵠沼の停留場の近くまでお迎に參りました。そして今か〳〵といつまでも待つて居りましたが、一こうお見ねになりませんでした。夕飯後は皆樣とらかん遊しや、かくしじやんなど面白く遊びましたので、さつきの事はいつしか忘れてしまいましたが、おしまいになつてから又思ひだし、さう〳〵今日はいらつしやらなかつたと思ふと殘念でたまりませんでした。

（武子）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講壇

限りなき生命

海老名彈正

我々が若し心の中に限りなき生命を感ずる事が出來ないならば霞流るゝ春を見ても心は依然苦しい冷な思で充されざるを得ない。人生の悲哀な狀態に居て花を見月を眺めたなら悲しい事が嘸多からう。物思ふ身に秋は悲しいと云ふが獨り秋ばかりではない、我に苦あれば春も又悲しいのである。否、彼此相對照し來て、一しほの感があるかもしれない。けれども限りなき生命を信ずるクリスチャンにあつては、天地の事一として惠ならぬものはない。即ち花も柳も、我心の狀態を照す證明となる譯であるから誠に幸である。春の生命の發する様を見れば、潑溂として何か抑さへんとして抑ふる能はざるものがある様に思はれる。春雨に濕ふ若草の上に、日の光が暖かに射す姿は、鬱勃として奮ひ起る精神上の作用と變つたことはない。信仰のないものは埋木の如く、何となく寂しい冷やかな所がある。何となればその中には發す可きものであり乍ら、發する能はずして塞がれて居るものがあるからである。けれども我々の精神が一度天地の神に觸るゝ時には我々の心は動かざるを得ない。神は生命である。初なく終なきものであるが長へに我々を支配し給ふものである。故に一度此の聲に接すれば我此にありと叫んで應ぜざるを得ない。而して基督は我々に此生命を示して吳れた方である。それは良心に依つて仄かに知る事の出來る公義正道の力で、言ひ換へて見れば、宇宙には道義界あるを以て、人は道義の念を起す事が出來るのである。併し注意す可きは、茲に道義と云ふのは冷やかな法則を指すのでなくして、暖き愛である。父と呼び子と呼ばるゝ、親子相愛の關係である。如斯精神界の天地觀が明になれば、そこに一種云ふ可らざる熱誠の情が燃ゐる。之は面白い精神狀態であつて、其意の向ふ所遂に身を忘れ家を忘るゝに至る。例へば畫家が筆を執つて凝乎と見詰むる、あの有様は他から見れば愚とも狂とも思はれやう。けれども何もかも打ち忘れて全く熱中する所には、一種インスピレーションの漂ふのを認むる事が出來るではないか。あの所に理窟があるか利己があるか。否その心は畵に奪はれて居るのである。之に反して若し熱誠なき場合には、うら枯れた

る冬空の如く冷くなつて、物事は凡て計算的になる。計算では眞實の事は出來るものでない。であるから

親が子を育てる時に計算はない

先頃私が高知に行つた折、一人の婦人が私は子供を修行させたいと思ひますが、東京へ出したものでしやうかと、恁う尋ねるから、出すがよからうと答へた。すると其婦人は、では私は子供に附いて東京へ參りましやうと云つた。此の人は可なりの資産家であり、殊には早く夫に別れたのであるから色々家の世話もせなければならぬ筈であるが、子の爲にはそれもこれも抛つて東京へ來ると云ふ、その情は熱誠と云ふより外に言葉がない。又或一人の婦人は二十五の折に、二人の子を殘された儘夫に先き立たれた。けれども此人は小學校の教師となつて、生活を支へ乍ら一心不亂に、子供の養育に盡して居る。年若き女子が老い先きの長い身を恁うして暮らす事は、實に堪へ難い所であるが、子を思ふ親の心はかくならしめざるを得ないのである。かくして飽迄熱中する所に人の此世に生きる意味があると云はなければならない。昔から儀式習慣になずむ道學先生には熱誠がない。熱誠が現るゝ時には、此等のものを打破る。人は云ふ、基督が起つた時、彼は何の理想を示したか。神人の關係を父子と見る事や、一夫一婦の敎等は、皆舊約より來たものではないか、と。成る程事實はそれに違ひない。けれども基督がヒレル、フイロー等の哲學者にも優さりて、人心を動かしたのは何の爲であるか、唯一の熱誠があつたからである。基督が神に熱し、人に熱して

奮ひ起つた時には、肉親の親兄弟すら悪鬼につかれたと思ふて捕へに來た。併し基督の聲は峻嚴刃の如くであつた。曰く、わが來れるは平和を出さん爲にあらず刃を出さんが爲なりと。この聲は因循姑息の小成に安ずる事を詰り、人々皆神に歸る可きを敎へたる曉の鐘であつた。けれども當代の人には彼の告ぐの神は分らなかつた。然らば基督の神とは何であるか。哲學者の神か、道學先生の神か、抑も又天地創造論の神か。否、彼の神は自已に生ける神である。清く正しくして善なる神である。その神を、鹿の溪水を喘ぐが如く慕ひまつりし主の熱誠は實に貴き限りである。而して基督は此熱誠を移して人に接し、人生に一大波瀾を起した。憐む可き人に對し、罪ある人に對して、止む能はざる慈愛の淚をたれ給ふた。宛も埋木が春に遇ふて花咲く如くパット熱誠が現はれた。パウロは此狀態を指して靈と稱した。又其當時の人々はクリスチヤンの集會を見て、狂人とも泥醉者とも考へた。ペンテコステの時にペテロは泥醉者と見られ、パウロはコリンタ書中に於て、汝等狂人と云はれざる樣注意せよと戒めた。狂人や泥醉者は善くないが、かく云はるゝ迄に熱した根底は靈であるパウロなども學理の上に於ては、色々の非難もあり議論もあるが、彼が自罪の思出に堪ふる能はずして、嗚呼我惱める人なる哉この死の體より我を救はん者は誰ぞやと、聲を放つて天地に號哭した時の、あの淚は唯悲しくて泣くのとは違ふそこには神を求めても求めても得られざる痛苦が迸つて居るではないか。けれどもキリストの愛より我儕を離す者は誰ぞや、患難なるか、或は困苦か、迫害か、飢餓か、赤裸か、

危險か、劍なるかと叫び、更に勵聲一喝、骨肉兄弟のためには基督を離れて地獄に落つるも我が願ふ所と云ふに至つては、眞に罪に勝つ凱歌の聲である。彼が基督の如くならんとして、名譽も何もかも打ち棄てた所は、實に偉いもので、インスピレーションを受けたる者に非ざれば、如斯なる事は出來ない。英國なり亞米利加なりに行つて見ると、狂する計りに政治に熱し傳道に熱する者があるが、これ實に國家の生きる所以て、日露戰爭當時に於ける我國民の如きも正にそれである。あの熱誠があつたればこそ幸に今日あるを得たと云はなければならない。思ふに善に向ひ、義に向ふのがクリスチヤンの心である。故に此心を移して、花を見れば歌ぶ事が出來、月を見れば喜ぶ事が出來る。一面より見れば、草木が太陽を見て其光を慕ふ如く、上に向つて成長し、他の一面より見れば、さやかに照らす月影の如く淸らかである。私は自然の生命の限りなく、妙なる有樣を見る時に、心嬉しく思ふが、人の中に熱誠を見る時には、更に愉快に思ふ。かの婦人が苦勞も厭はずに

夫の爲よかれ子の爲よかれ

と身を粉に碎いて働くのを見ると、唯感ずる外ない。或人は之を以て、自己の生命を沒すると考へるかも知れないが、左樣じやない。寧生命を殖やすのである。生命は上に延びる許りでなく擴がりがある。長さは壽命で、幅は道德の生活である。唯長命したとて偉いならは、人間より長命のものは幾らもある。又同じ人でも壽命は聖賢凡愚の區別に依るもので

ない。けれども肉を離れて精神の上から見ると、我々は長さの生活でなく、幅の生活をせなければならん事が分る。クリスチヤンの精神は前者にあらずして後者でなければならぬ。然らずんば雄大正眞なる域に達する事は出來ない。私は嘗つて水戶に行つた時思つた。水戶人は王政維新の時には、慷慨悲憤時事に盡粹した。けれどもそれは唯所謂水戶根性で行つたのではない、國民の生命を感じて天下を動したのである。併しクリスチヤンの生命とする所は國家に止まらずして、宇宙的でなければならぬ。狹い心で物に當れば我に應じて響かないが、此方から心を開いて行けば物として聲がある。私は强ちクリスチヤンと云ふのではないが、信仰のある者は、何處如何なる地に於ても、宗敎の精神の勃興するのを見れば、冷然として何處には恁う云ふ事があるなどゝ澄まして居る譯には行かぬ。苟も限りなき生命を自覺する時には、英にある者も米にある者も皆悉く友と成つて、同情同感の中に入る事が出來る。宛ら心臟の皷動が全身に傳はる如く、一人の感ずる所萬人の感ずる所と成つて、全世界に響き渡るのである。私は終に臨んでパウロの言を引きたい。パウロは衣冠美々しき大宮人や、博引傍搜を之れ事とする學者の輩に滿足せずして漁夫や、田夫の中に却て堅信の士あるを見た。そこで形の變じ易く信仰の長なる事を述べて云ふ。外なるものは衰へど中なるものは益盛なりと、かくして我々同胞が古人と共に生命の中に成長し生命の中に生きて幾年月の春秋を重ぬるならば希くは消ゑざる力の中に生きる事が出來る事と信ずる。

雜錄

他人の所有物の取扱に就いて

安井哲

一、他人の所有物を大切に保護せねばならぬといふ思想は文明國人の必有て居らねばならぬところの者であります。此思想があつてこそ國の秩序は保たれ、國民は安心して生活する事が出來ます。然るに半開國や未開國の人民は此思想が欠乏して居りますから、自他の所有物の區別がなく、他人の物を我物の如く妄りに使用します。言を換へて申します時には、盜心があると申しても可いで御座いませう。然るに文明國の人々は、自分の所有物と他人の物とを明に區別しますから、姉妹、兄弟の間柄でも物品の貸借は中々嚴重であります。時としては、吾々日本人の目には余り他人らしいと思はれる事もあります。

　私が實驗した文明國人と半開國人との召使を比較して見ますと、此點に於て明な差異があります。即文明國人殊にアングロサキソン人種は召使としては誠に正直で、徒に他人の物品に手を觸れません。其故假令自分の室に大切な品物を置き忘れても殆紛失の憂は御座いません。然るに未開國又は半開國人たる召使には信用し得る者が甚少く、私などは隨分多くの物品を盜み取られました。

二、吾國は文明國の中に加つて居るのみか、昔より廉恥心に富んで居るといふ事を誇りとして居る國でありながら、近來無責任、不正直の言行の多くなつて來た事は、實に歎くばかりであります。殊に公人として自分の取扱つた公衆の物品を無斷に使用し、又は開封する等の無責任なる行爲に對しては、實に呆れるの外なく、又悲しむの外は御座いません。

　私は昨年正直を以て國民の誇りとして居る英國から、樂しんで遙々歸朝致しました。然るに歸宅するや否や、實に不愉快な經驗を致しました。それは地方に居た朋友が、親切に名物の夏密柑を送つて下さいましたのに、不幸にして、殆其半分を拔き去られた事で御座います。折惡しく私は數日間不在で御座いましたので、留守居の者が之れを請取りましたが、配達人に荷物破損の理由を問ひ正しました處が、「食物を送られると、かゝる損害は通例で御座いますから致方は御座いません」といつたそうで御座います。盜み去つた人の罪は兎に角として、「かゝる事を通例です」と答へた人の心に對しては、實に嘆かざるを得ません。一時の出來心は尙恕すべしとしても、他人の物品を損害し、之れを私する事を普通の行爲と見做すほどに廉恥心が鈍つて居るかと思へば、實に悲しますに居られません。

　處が本年の夏、再も同樣の經驗を致しまして非常に不愉快で堪りません。而も同一の朋友が遙々と再も送つて下すつた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

物で御座いますから、一層其好意に對して無責任の行爲を惡みます。此品物は御菓子であつて、小包郵便で送られました。然るに其小包は鋭い小刀か何かで其隅を切り開かれ、中から幾何かの菓子を取り出した形跡が御座います。此度は私が在宅で御座いましたから、損害小包無斷配達の說明を求めました。ところが役員の一人が故さらに訪問せられ、叮嚀に辨解されましたから、其まゝ請取つて、御氣の毒ながら差出人に其由を申して注意を致しました。私は自分の生れた國に於て、自分の同胞をかくも信用する事の出來ぬ不愉快さをつくづく感じて、吾國の爲めに泣きました。

三、かゝる無責任破廉恥の風俗は、自然に無邪氣な子供にまでも感染して、他人の物を無斷に私有とする風を目撃致します。私は先頃十歳前後の四五名の子供が、長い竿を持つて、他家の庭内にある果物を落し居るのを見ました。そこで私は勉めてやさしく「あなた方の御家は此處ですか」と問ひました所が、「いゝえ」と即答致しました。そこで私は「他家の果物を取るのは良しくないから御止めなさい」と誡めましたら、從順に止めました。

又數日前近處の家の前を通りました處が、垣の周圍に植ゑてある「龍の髭」を掘つて大きな「バケツ」に入れて居る五六名の子供を見ました。そこで私が「あなた方は之を何になさるのですか」と尋ねますと、「八百屋ごつこをして遊ぶのです」と答へました。「それならば向側に生ゑて居る草を澤山お摘みなさい。折角家の周圍を美くしく見せ樣として植ゑた植物を取つては、此家の方に對してよろしう御座いません」と申上ましたらば、草摘しやうとて直に立ち去りました。

四、かゝる可憐な子供達が他人の物を取る事を敢へてするといふのは、誰の罪で御座いませうか。此處に至つては學校の修身談も何等の功を奏しません。單に智識として「他人の物品を盜んではならぬ」といふ事か知つて居りませうが、其れに對して何の感も御座いません。併彼等より年長者ではあるが、全く不見不知の他人である私に止められて從順に止めた彼等の心は未十分惡に染つて居りません。

嗚呼かゝる前途有望な未來の國民を、家庭と社會とが、自然に惡に導きすゝめるかと考へます時には、吾國將來の爲めに泣かずには居られません。私共は見當り次第にかゝる惡風俗を善に導かねばなりません。之れは文明國人を以て自ら許す者の義務であります。

少女日記　四

七月廿五日　日　晴　　今朝も色々うろついて居りますうち お晝になつて しまいました。それから御友だちと面白く遊んで居りましたら、さつせん、千代叔母樣がいらつしやいましたので、私の喜びは何さもいひようがなくて、今迄の面白さもいつしか忘れて、千代叔母樣さ お湯に入り、夕御飯を樂しくいたゞいて、晩には早くさここに入りました。

廿六日　月　晴　　今日は四時半ごろ起きてすぐ海岸に行きました。見るさむかふの松林のかげからほんのりさ富士山が見ゑて、大そうよい決色でした。飯後は例の通り日曜學校に參り植村先生の御孃さんによい御話をうかゞつて七時半頃歸りました。午後からはあんまり暑いのでごろ／＼して居りました。夕方にはブラ／＼さ海岸をつたわつて、江の島近くまで散歩に參りました。

廿七日　火　晴　　今朝はとく起きて海岸を散歩するつもりでしたが、何だか行きたくなくなりましたので、そこで寫生をしたり海の景色をながめたりして御飯前にへやに歸りました。けふは河本さんのゆ子さんが日曜學校をお敎へなさいました。午後からは又寫生を澤山致しましたら、今日のは大そうよくできたさ自分で自分を感心致しました。夜は皆樣さ色々遊び大そう面白くございました。　（武子）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

彙報

●●●●●**大阪の大火**　七月卅一日拂曉大阪北區空心町玉田メリヤス工場より發火し、折柄の烈風に火勢猛烈を極め、水の都市との稱ある同市なるにも係らず消防其効なく、遂に堂島曾根崎梅田福島野田方面に延燒し、東西二里南北拾餘町乃至四五町に亘りて約二萬近くの家屋は全く灰燼に歸せり。控訴院堂島女學校等も此災に遇へり。鎭火したるは翌八月一日の午前五時なれば、二十六時間燃え續きたる譯なり近年稀有の大火なりといふべし。

●●●●●**江濃の地震**　八月は如何なる月にや天災地變相次で來れり。即十四日午後三時近江美濃の一部に强震あり、伊吹山は崩壞し、震源地虎姬の如きは慘狀目も當られず、全村潰倒に近しと江州五郡を通じたるのみにても即死三十一名負傷百七十二名全潰千百二十六半潰二千四百十八なりと。

●●●●●**渡米實業團**　米國實業家の招待に應じ我國各商業主都より選れたる三十七名の實業家は八月十八日横濱を出帆渡米の途につけり。

●●●●●**婦人矯風會の活動**　今回の大阪大火に曾根崎新地の類燒せるを好機とし、婦人矯風會にて同地の基督敎會と聯合し遊廓の移轉を主張し、會長矢島揖子女史も出阪して運動中なりと。

●●●●●**婦人倶樂部**　近頃東都に遊學せる女學生にして、高尚安全なる娛樂機關なきため次第に惡風に污染し、遂に滔々相率ゐて墮落するものあるより、此の缺陷を救はんため岩倉公爵夫人等發起となり、題名の如き倶樂部を組織して淸新健全なる趣味と娛樂とを提供する計畫ありと。吾人は一日も早く其實現の眞ならんことを祈る。

編輯だより

▲近年稀有の暑さと思ひし夏も八月に入りては左迄ならず、涼氣頓に催し來りて、今は虫聲風韻何となく秋意を感じる樣に成りました。讀者諸君も定めし永い休暇を或は山に或は海に樂しく過されて、今は一層健かなる身體と爽快なる精神を以て、新秋を迎へ新學期と新事業に對せられつゝあることと信じます。

▲大に休み大に遊びしは大に働き大に勉强せんがためであります。殊に秋は金氣身に迫りて心身何となく力强さを感じます。是れも一つは夏の長き休養の結果でありませう。私共も學窓に事業に勉勵したいと思へます。

▲海老名主幹一家は逗子に避暑されて居ましたが、九月初旬中に歸京される筈です。夫人の避暑生活實驗談は本號の家庭欄に收めました。

▲元良博士夫人は御家族と一時湯ヶ原に避暑されましたが、夫人のみは早く歸京された樣であります。

▲野口夫人は陸奥三本木なる尊父御見舞のため、八月中旬同地に向はれ一週間許で歸京されました。嘸ぞ多くの詩的御土產をもつて御歸りのことと存じます。

▲安井主筆は伊豆地方に避暑さるゝ筈でしたけれど、種々御用事にて到頭在京し通された樣でありまます。併し頗る御壯健に在らせられます。

▲本號には諸兄姉よりの投書相應にありましたけれど、紙面の都合あり次號に延期致しました。願者諒焉

▲本月は東京婦人會の講演會及び新來女學生歡迎の會などもあるやに聞いて居れば、次號にはそれ等を紹介し申すことが出來るかと信じます。

▲次號締切は九月十三日本社事務所宛御送りを願ひます。

▲最後に讀者諸君の健康を祈る。

本誌定價　一部金拾錢（郵稅ナシ）◎六部半年分前金六十錢（郵稅ナシ）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵稅ナシ）

外國行定價　壹部金拾四錢（郵稅ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵稅ナシ）一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵稅ナシ）

廣告料				
廿七字詰行	四分ノ一頁	中頁	一頁	内表紙十二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金十圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候
●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候
●郵券代用は一割增の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京市小石川區小日向臺町
三丁目九十三番地
新人社事務所
振替貯金口座一四〇〇五

明治四十二年八月二十八日印刷
明治四十二年九月一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區小日向臺町三ノ九三　野口末彥
發行所　東京府下豊島郡巣鴨村大字巣鴨六百六十一番地　新人社
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

院長診察月、水、木、金午前、松田醫學士診察火、土、
午前、窮者施診、火、木、午前、入院診斷後隨時應需、
松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局（八八八病院用／八九八私宅用）

東洋內科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

院長　醫學士　高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ケ崎村濱（停車場所在）

電話茅ケ崎（二一番）

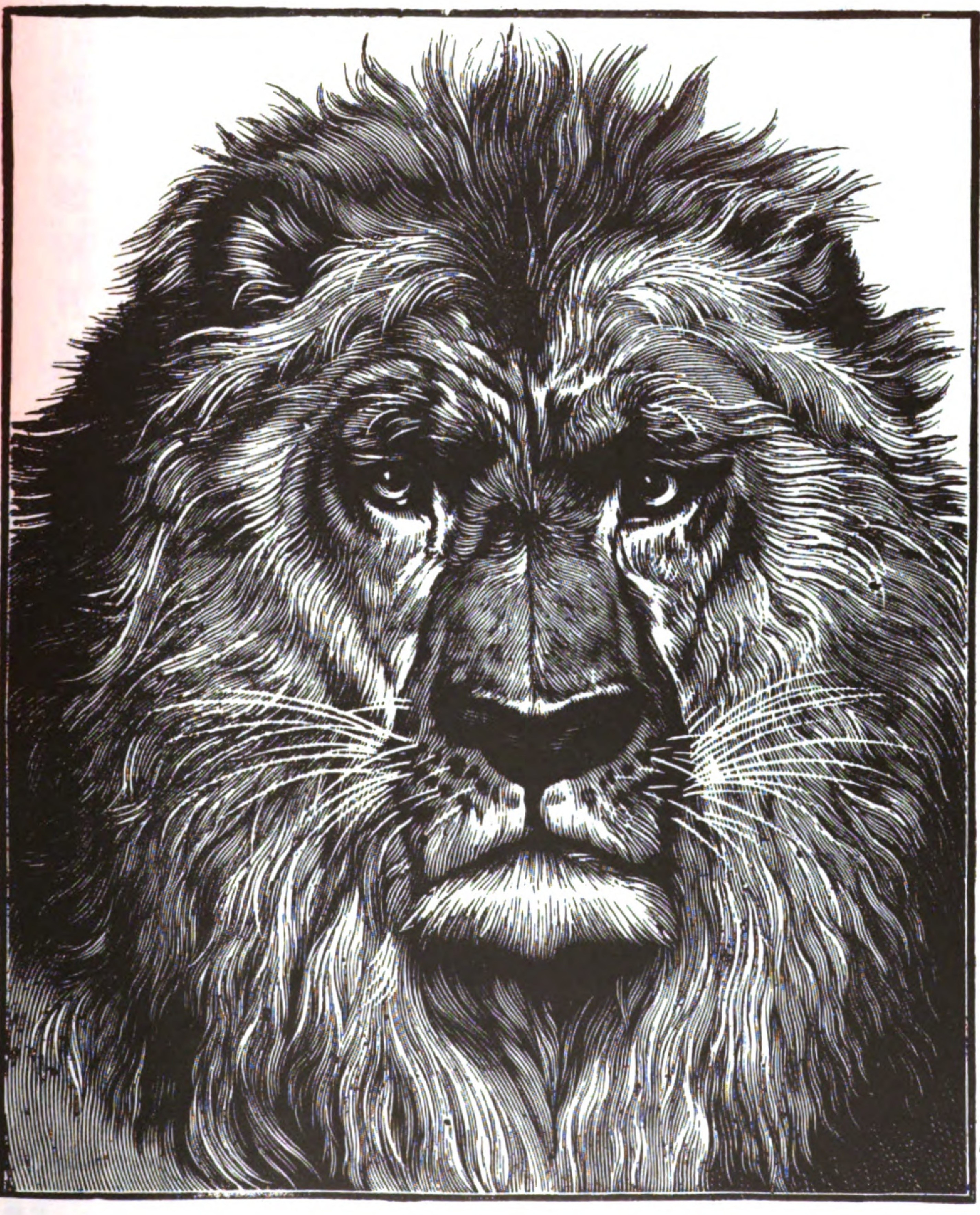
南湖院

河野副長は目下當院に在勤、
院長診察土曜日午後〇同時窮者施診、
副長診察月、火、水、木、金、土、午前
入院診斷後隨時應需、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界
每月一回一日發行
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

ライオン歯磨



發賣元
東京市神田柳原川岸
小林富次郎

明治四十二年九月一日發行第壹巻第六號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN